

第二編 陸軍問題	一九五
第三編 海軍問題	二二三
第四編 空軍問題	二六三
第五編 人員問題	二四三
第六編 化學戰問題	四五三
第七編 國防費問題	五一九
第八編 武器取引製造取締問題	六八五

附 錄

會議日誌	八〇七
------	-----

第一部 總 論

第一編 會議經過概要

目次

第一部 總論	一
第一編 會議經過概要	一
第一章 概說	一
第二章 獨逸ノ軍備平等要求	四
第一節 獨逸政府ノ對佛覺書	四
第二節 佛國政府ノ回答	五
第三節 英國政府ノ聲明	六
第三章 獨逸政府ノ軍縮會議不參加通告	七
第四章 佛國ノ新提案	九
第一節 「ボンクトール」ノ聲明	九
第二節 佛國新提案ノ要旨	一〇
第三節 佛國新提案ノ解說	一七
第五章 英國外相「サイモン」ノ聲明	一八
第一節 英外相「サイモン」聲明ノ要旨	一八
第二節 「サイモン」聲明ノ解說	二二

第六章 海軍縮小ニ關スル帝國提案	二四
第一節 帝國提案ノ提出	二四
第二節 帝國外務大臣談	二八
第三節 帝國海軍大臣談	二九
第七章 五國協定ノ成立ト獨逸ノ會議復歸	三一
第八章 英國議事手續案	三二
第九章 英條約案	三四
第一節 英條約案ノ提出	三四
第二節 英條約案ノ要旨	三五
第十章 英首相及外相ノ訪伊(四國協約ノ商議)	三八
第十一章 英案審議ノ停頓	三九
第十二章 米大統領「ルーズベルト」ノ親電	四〇
第十三章 獨宰相「ヒトラー」ノ聲明	四三
第十四章 安全保障問題ニ關スル米代表ノ聲明	四七
第十五章 四國協約ノ署名	四八
第十六章 夏季休會	五〇

一般軍縮會議報告書(續)

第一部 總論

第一編 會議經過概要

第一章 概説

一、昭和七年七月二十三日ノ決議ニ於テ平等權問題ノ解決セラレ居ラサルハ獨逸ノ不滿トシタル處ニシテ獨代表ハ右決議案ニ反對シ右問題ノ満足ナル解決ヲ見ル迄今後軍縮會議ニ參加セサルヘキコトヲ仄シタルカ八月二十九日獨逸政府ハ愈々軍備平等要求ニ關スル交渉開始要望ノ覺書ヲ佛國政府ニ交付シ佛ノ之ヲ拒絕スルヤ九月十五日軍縮會議議長ニ其ノ不參加ヲ通告セリ獨逸ハ公ニハ他國ノ軍備ノ縮減ヲ要求シタルモ其ノ政府ノ國粹的ナルコト及有力者ノ演說等ニ鑑ミ或ハ寧ロ再軍備ヲ欲スルモノニ非サルカノ懸念ヲ與ヘタリ

二、右獨ノ要求ニ對シ九月十一日佛國政府ハ問題ノ佛國ノミノ關係ニ非サル故ヲ以テ直接交渉回避ノ回答ヲ爲シタルカ英國政府ハ九月十八日獨逸要求ハ法律上ノ根據ナキモ幾分之ヲ容認セル聲明ヲ發表シ又「ムソリニ」ハ明白ニ獨ノ要求ヲ支持セリ

三、英國政府ハ獨ノ軍備平等要求ヨリ生シタル難局打開ノ爲英、獨、佛、伊四國會議ヲ招集シタルモ會議地ヲ倫敦トスヘキヤ壽府トスヘキヤニ付議續ラス九月二十一日再開ノ幹部會ニハ獨逸ハ參加セザリキ

四、十一月十四日佛國ハ二月ノ「タルヂュ」案ヨリ稍進ミタル所謂建設的提案ヲ爲シタルカ其ノ主眼ハ歐洲大陸ニ於ケル

陸軍ノ攻撃力縮減ト相互援助ニアリ前者ノ爲歐洲大陸陸軍ヲ一樣ニ重兵器ヲ有セサル短期兵役制度トス安全保障ニ付テハ(一)侵略國トノ經濟斷交(二)聯盟規約ノ嚴守(三)相互援助規約ノ締結(四)被侵略國援助ノ爲聯盟軍ノ組織(五)地中海海軍協定ノ締結(六)空爆ノ禁止及空中輸送歐洲聯盟ノ設立ヲ提議セリ

五、英外相「サイモン」ハ十一月十七日幹部會ニ於テ獨ノ平等權要求ヲ認メ列國カ逐次獨逸ノ水準迄軍縮スヘキコト及獨逸再軍備ノ不可ナルコトヲ說ケリ

六、十二月九日帝國政府ハ海軍軍縮ニ關スル提案ヲ提出セリ右提案ハ攻撃的勢力ヲ弱メ防禦的勢力ヲ強メムトスル原則ニ基キ爲サレタルモノニシテ縮減ハ各國ノ實在兵力ヲ標準トシ且優勢軍備ハ寡勢軍備ニ比シ一層大ナル縮減ヲ爲ササルヘカラサルコトヲ基調トス右提案ニ依レハ航空母艦全廢並主力艦及甲級巡洋艦ノ縮減ノミニ依リテモ五大海軍國ノ縮減量總計約百三十萬噸ニ上リ更ニ乙級巡洋艦以下並右五國以外ノ海軍兵力縮減量ヲ加フルトキハ一層大ナル縮減ヲ齎ス次第ナリ

七、獨ノ平等權及佛ノ安全保障問題ニ關スル英米佛伊獨ノ五國會談ハ十二月初メヨリ壽府ニ於テ「マクドナルド」「サイモン」「ノルマン、デビス」「ノイラート」「アロイジ」ノ間ニ行ハレタルカ十日漸ク五國宣言成立セリ右宣言ニ於テ英佛伊三國ハ一切ノ國ニ安全ヲ齎スヘキ「システム」ノ下ニ獨逸ニ平等權ヲ認メ英獨佛伊ノ四國ハ一切ノ歐洲各國ト共ニ紛爭ヲ武力ニ依リ解決セサルヘキコトヲ嚴肅ニ確認スルノ用意アル旨ヲ聲明セリ

八、五國協定ノ結果獨ハ會議ニ復歸シ十二月十四日以來休會タリシ會議ハ昭和八年一月二十三日ヨリ幹部會二月二日ヨリ一般委員會ヲ開キタルカ獨ハ佛ノ安全保障問題ハ武力不行使宣言ニ依リ解決セラレタルモノトシ實質的軍縮ノ急速實現ヲ要求シ佛ハ佛提案ノ安全保障ヲ固執シ獨伊對佛及其ノ與國ノ對立關係ハ再ヒ險惡トナレリ

九、英國首相「マクドナルド」ハ此ノ危機打開ノ爲メ三月十一日來壽シ各國代表ト會議ヲ爲シタル後十六日一般委員會ニ五編九十六條ヨリ成ル所謂英國案ヲ提出セリ

英案ハ「ケログ、バクト」ノ強化即チ協議條項、陸軍兵員ノ制限、歐洲大陸軍ノ編成統一、重兵器ノ廢止、佛伊ノ倫敦條約加入、警察目的ヲ除キ空爆ノ禁止、平和條約軍事條項ノ廢止等ヲ規定ス

十、新提案ヲ爲シテ軍縮會議ニ一脈ノ活氣ヲ與ヘタル「マクドナルド」首相ハ壽府ヨリ「サイモン」外相ヲ同伴羅馬ニ赴キ「ムソリニ」ト所謂歐洲四國協約案ヲ議シ歸國ノ途佛「ダラディエ」首相ト會見シ本協約案ノ成立ニ努力セリ

十一、英案ハ一般委員會ニ於テ討議ノ基礎トシテ採擇セラレタルカ其ノ實質的討議ニ入ルヤ獨逸代表ハ種々修正案ヲ提出シ特ニ諸種ノ禁止條項ノ擴張、平等權ノ明記ヲ主張シ佛英獨ハ之ニ反對シ會議ハ獨ノ態度強硬ナル爲停頓ノ止ムナキニ至レリ

十二、右形勢緩和ノ爲英佛獨伊米五國間ニ私的交渉行ハレタルカ米大統領「ルーズヴェルト」ハ五月十六日世界平和確保ニ關スル重大聲明ヲ爲シ之ヲ各國ノ元首ニ打電セリ米大統領提議ノ骨子ハ(一)先ツ英案ヲ採用スルコト(二)次ノ手段ノ時期及手續ヲ協定スルコト及(三)何レノ國モ條約ノ制限以上ニ軍備ヲ増大セサルコト(四)不侵略條約ヲ結フコト等ナリ

十三、獨逸宰相「ヒトラー」ハ五月十七日特ニ召集シタル國會ニ於テ比較的穩和ナル外交演說ヲ爲シ平和手段ニ依ル紛爭ノ解決ヲ強調シ五月十九日獨代表「ナドルニ」ハ英案ニ對スル修正案ヲ撤回シ英案ヲ新條約ノ基礎トスルコトヲ受諾セリ

十四、「ノルマン、デヴィス」ハ五月二十二日米大統領ノ教書ヲ敷衍シ國內警察必要程度迄ノ漸進的軍縮、攻撃的兵器ノ廢棄、平和脅威ノ場合ニ於ケル米國中立ノ放棄ヲ說キ又三十日ハ米國ハ武力不行使規約ノ普遍化ヲ受諾スルノ用意アル旨ヲ聲明セリ

十五、英米側ハ六月十二日倫敦ニ於テ開催セラルヘキ經濟會議前ニ何等カ會議ヲ纏メンコトヲ希望シタル如ク獨ト共ニ直ニ實質的軍縮條項ノ審議ニ移ランコトヲ主張シタルモ佛ハ安全保障問題ノ先議ヲ主張シ種々ノ經緯アリタル後六月八日

會議ハ英案全體ノ第一讀會ヲ終ヘ英案ヲ將來軍縮條約ノ基礎タルヘキコトヲ決議シ三週間ノ休暇ニ入りタルカ休暇明ニ先チ六月二十七日幹部會ヲ開キ協議シタル結果國際經濟會議開催中ニテモアリ又暑中休前匆忙ニ審議スルモ效果少ナカルヘキニ依リ秋迄會議ヲ延期スルコトニ決シ六月二十九日ノ一般委員會ニ於テ一般委員會ヲ十月十六日迄休會シ其ノ間議事ノ促進ヲ圖ル爲「ヘンダーソン」議長ニ於テ英佛伊獨其ノ他ノ國ヲ歴訪シ各國政府ト個別的ニ内交渉ヲ行フコトニ決定セリ

十六、之ヲ要スルニ昭和七年八月以降ニ於ケル軍縮問題ハ(一)獨逸ノ平等權要求(二)之ニ對スル佛國ノ回答及英國ノ聲明(三)十一月中旬ノ佛國新軍縮案(四)英國提案(五)五國協定(六)海軍軍縮ニ關スル帝國提案(七)三月中旬ノ英國新提案(八)歐洲四國協約ノ交渉(九)米大統領ノ聲明(十)獨宰相「ヒトラー」ノ演說ノ順序ニテ發展セルカ平等權及安全保障ニ關スル獨佛ノ對峙ニ依リ會議ハ幾度カ危機ニ瀕シ停頓勝チナリキ

第二章 獨逸ノ軍備平等權要求

獨逸政府ハ八月末軍備平等權問題ヲ提ケテ佛國ニ直接交渉ヲ要求シ其ノ容レサルヤ軍縮會議脫退ノ意ヲ表明シタルヲ以テ軍縮會議ハ茲ニ一大難關ニ直面スルニ至レリ

第一節 獨逸政府ノ對佛覺書

八月三十一日獨外相「ノイラート」男ハ在伯林ノ佛國大使「フランソアボンセ」ニ平等權要求ニ關スル交渉開始要望ノ覺書ヲ手交セリ

覺書ノ要旨左ノ如シ

(一) 七月二十三日獨逸軍縮代表カ軍縮會議ニ於テ提起セル獨ノ平等權要求ニ關シ獨逸政府ハ佛國政府ト直接商議センコトヲ望ム

(二) 獨逸ハ軍縮條約カ等シク各國ニ適用セララルニ於テハ如何ナル軍縮ヲモ拒否スルモノニ非スト雖モ高度ノ武裝國カ現在ノ軍備ヲ僅ニ變更スルニ過キササルニ拘ハラズ獨逸ニ對シテハ「ヴェルサイユ」條約ヲ維持スルカ如キ軍縮會議ノ結果ハ受諾スルヲ得ス

(三) 條約義務ノ法的形式及期間ハ獨逸及各國ニ對シ同一ナルヲ要ス

(四) 條約義務ノ内容ニ對シテハ交渉ノ餘地アルヘク獨逸政府ハ最初ノ條約ニ於テハ其ノ軍備ニ若干變更ヲ加フルヲ以テ満足スヘシ

(五) 質的軍縮ニ關シ獨逸政府ハ一般的禁止ヲ受諾スルノ用意アルモ一般ニ禁止セラレサル兵器ハ獨逸ニモ原則トシテ許容セラレサルヘカラス又獨逸ハ國防組織ヲ其ノ經濟及社會的特性ノ要求ニ合致スル様改造スルノ權利ヲ要求ス例ヘハ長期服役兵員ノ服役年數ノ差違ヲ設クルカ如キ組織上ノ問題、軍隊編成ノ自由ノ問題ノ如キ是ナリ又義務的徵集ノ特殊民兵ニ國內秩序維持並ニ國境及沿岸防禦ノ爲短期訓練ヲ施スカ加キ問題モ之ニ屬ス

(六) 佛國ノ重視スル安全保障ノ問題ニ付テハ等シク各國ノ安全ヲ確保スヘキ案ヲ討議スルノ用意アリ

(七) 要スルニ獨逸ノ權利平等ノ問題ハ永ク未解決ニ放置スヘキニ非ス

第二節 佛國政府ノ回答

獨逸ノ覺書ニ對シ佛國政府ハ九月十日ノ閣議ニ於テ對獨逸回答案ヲ審議決定シ之ヲ十一日「ボンセ」大使ヨリ獨外相ニ手交セリ要旨左ノ如シ

(一) 佛國政府主張ノ中心ハ聯盟規約第八條ノ適用ニシテ其ノ目的ハ各國ニ平和ノ眞ノ保障ヲ與フヘキ條約ノ締結ニアリ

(二) 佛國政府ハ新條約カ當然「ヴェルサイユ」條約ニ代ルヘキモノナリトノ議論ニ同意スルヲ得ス

(三) 新條約ノ内容ニ付テハ佛國政府ハ一般平和組織ニ於ケル保障ニ比例シテ軍縮ヲ行ハント欲スルモノナリ

(四) 獨逸ハ平和條約禁止武器ノ所持ヲ要求スルコト明ナルカ本問題ハ全歐洲ニ關スルヲ以テ斯ル廣汎ナル問題ニ對シテハ

佛國政府單獨ニテ回答ヲ與フルコトヲ約スルヲ得ス

- (五) 獨逸カ本問題ヲ固執スルニ於テハ「ローザンヌ」會議後締結セラレタル紳士協約署名國全部ノ協同行動ヲ必要トスヘク又商議ハ「ヴェルサイユ」條約ニ依ラサルヘカラス蓋シ獨逸ハ同條約第一六四條ニ依リ其ノ所定軍備ハ聯盟理事會ノ決定アル迄維持セラレヘキ事ヲ約束セリ

- (六) 米國モ亦一九二一年八月二十五日ノ對獨條約ニ依リ本問題ノ關係國ナリ

第三節 英國政府ノ聲明

獨逸ノ軍備平等權要求問題ニ關シ英國政府ハ九月十八日長文ノ聲明書ヲ以テ其ノ見解ヲ公表セルカ要領左ノ通

- (一) 目下焦眉ノ急ナル世界ノ經濟的回復ノ爲各國共全力ヲ注キ居ル際右ノ如キ重大ナル政治問題ノ提起セラレタルコトハ誠ニ不幸ト言フヘク殊ニ獨逸ノ經濟的困難及最近債權國ヨリ獨逸ニ與ヘタル財政的讓歩ニ顧ミル時ハ右ハ不賢明ナルノミナラス時機ヲ得サルモノト言フヘシ
- (二) 英國政府ハ條約上ノ義務ノ無視ニ對シ獎勵ヲ與フルコトヲ得ス軍縮條約ニ依リ又ハ軍縮會議ノ失敗ニ依リ「ヴェルサイユ」條約第五編ヲ廢棄シ得ヘシトノ法律論ハ英國政府ノ首肯スルコト能ハサル所ニシテ右第五編ハ尙拘束力ヲ有スルノミナラス協定ニ依ラサル限り之ヲ失フコトナキモノナリ
- (三) 英國政府ハ軍縮事業ノ達成ヲ切望スルモノニシテ若シ第一次軍縮會議ノ結果カ軍備ノ増大ヲ招來シ又ハ或國ヲシテ事實上再ヒ兵備ヲ整ヘシムルカ如キコトナラムカ右ハ實ニ悲シムヘキ矛盾ナリ
- (四) 軍縮會議ノ目的ハ各國カ協定ニ依リ自由意思ヲ以テ各自ノ軍備ヲ制限スヘキ條約ヲ締結スルニ在リ各國ノ軍備ハ一律ノ制限ヲ受ケ又平和條約華府及倫敦海軍條約等ノ如キ現存諸條約ノ規定ニ依ル制限ハ相互ノ同意ニ依リ變改セラレサル限り右軍縮條約中ニ引繼カルヘシ
- (五) 上述ノ如キ軍縮會議ノ事業及目的ニ對スル英國政府ノ見解ハ獨逸政府ノ提起セル今次ノ問題ニ對シ回答ヲ與フルモノ

ト思考ス

- (六) 軍備ノ量の問題ヨリ區別セル「ステータス」ノ問題ハ國家ノ自負心ト權威ノ問題ヲ惹起シ各國民間ニ憤激心ヲ醸成スルモノナルカ故ニ本問題ノ如キハ條約上ノ義務ノ無視又ハ一定軍備ノ増加要求ト言フカ如キ方法ニ依ラス友好的交渉ニ依リ調整スルヲ望マシト思考ス而シテ右調整ハ性急ナル挑戰的態度又ハ軍縮會議ヘノ不參加ノ如キ手段ニ依ラス關係各國間ノ會議ニ於テ氣長ニ交渉スルコトニ依リテノミ達成シ得ヘキモノナリ

第三章 獨逸政府ノ軍縮會議不參加通告

一、獨逸政府ノ通告要旨

獨逸政府ハ其ノ軍備平等ニ關スル直接要求佛國政府ノ拒絕スル所トナルヤ九月十四日正式ニ「ヘンダーソン」議長ニ宛テ會議不參加ヲ通告セリ其ノ要旨左ノ如シ

七月二十三日ノ決議採擇前一般委員會ニ於テ獨逸首席代表ハ獨逸政府カ右決議ニ反對セサルヘカラサル理由ヲ陳述シ結局獨逸ノ權利平等ノ問題カ満足ニ解決セラレサル限り今後軍縮會議ノ事業ニ參加スル能ハサルヘキコトヲ宣明セリ然ルニ右決議ハ採擇セラレタルヲ以テ成立スヘキ軍縮條約カ「ヴェルサイユ」條約ノ軍縮條項ヲ距ルコト遙カニ遠キモノタルヘキハ既ニ明カトナレリ故ニ新制度カ獨逸ニ如何ニ適用セララルカハ現實ノ問題トナリ右問題解決セラレサル限り軍縮ノ具體的諸問題ヲ解決スルコト不可能ナリ

獨逸政府ノ見解ニ依レハ唯一ノ解決方法ハ軍縮ニ關シテハ一切ノ國家カ同一ノ原則及同一ノ主義ニ從ヒ何レノ國家モ其ノ例外タルヘカラサルコトニ存ス新制度カ等シク獨逸ニ適用スルコトカ決定セラレサル限り獨逸カ今後軍縮會議ノ審議ニ參加スルコトヲ要求スル事能ハサルヘシ

獨逸ハ本問題ヲ速ニ解決シ引續キ軍縮會議ニ協力セムカ爲ニ外交上ノ手續ニ依リ平等權問題ノ解決ニ努力スル處アリシ

モ今日迄ノ處何等満足ナル結果ニ達セザリキ斯カル事情ニ鑑ミ獨逸政府ハ九月二十一日ノ幹部會開催ノ招請ヲ受諾シ得サルコトヲ通告セサルヲ得サルハ遺憾ナリ

獨逸政府ハ依然一般軍縮ノ急進的實現カ平和維持ノ爲極メテ必要ナルコトヲ確信ス獨逸政府ハ軍縮會議ノ事業ヲ注視スヘク又事態ノ推移如何ニ依リ將來ノ態度ヲ決スヘシ

二、「ヘンダーソン」議長ノ回答要旨

前記獨逸政府ノ通告ニ對シ「ヘンダーソン」議長ハ九月十八日左記要旨ノ回答ヲ爲セリ

- (一) 獨逸政府カ幹部會ニ參加セサルコトヲ決定シタルハ遺憾ナリ
- (二) 右決定ハ締結セラルヘキ條約カ「ヴェルサイユ」條約ノ軍縮制度ト著シク異ナルヘシトノ獨逸政府ノ見解ニ基クモノナルカ如シ

(三) 然レ共七月二十三日ノ決議ノ左記諸點ニ付獨逸政府ノ注意ヲ喚起シタシ

- 第一、前文ニ於テ陸海空三軍ニ亘リ世界ノ軍備ニ著シキ縮減行ハルヘキ旨聲明セラレタリ
- 第二、軍縮會議第一期ニ關スル部分ニハ

「會議ハ重要ナル若干ノ問題ニ付合意成立シタル事ヲ認メ將來ニ於ケル一層廣汎ナル協定ヲ害スルコトナク一般軍縮條約ニ挿入セラルヘキ軍縮ノ具體的方法ヲ今ヨリ記錄スルコトヲ決定ス」トノ文句アリ

- 第三、決議第四編ニハ本決議ハ一層廣汎ナル軍縮又ハ各代表部ノ提出スヘキ政治的提案ニ對スル軍縮會議ノ態度ヲ豫斷スルモノニ非ストアリ

- (四) 要スルニ新條約ノ形式及實質ハ未タ決定セラレス此等ノ問題ハ今後會議及委員會ニ於ケル審議ニ依リ決定セラルヘキモノナリ

- (五) 獨逸政府ハ其ノ決定ヲ變更シ成ルヘク速ニ再ヒ幹部會ニ參加センコトヲ望ム

第四章 佛國ノ新提案

一、「ボンクール」ノ聲明

十一月四日ノ幹部會ニ於テ佛外相「ボンクール」ハ佛國新提案ニ關シ左記要旨ノ聲明ヲ爲セリ

- 一、本案ハ佛國民ノ聯盟ニ對スル信頼及願望ノ念ヲ表スト共ニ各代表部及「ベネシユ」「ボリテイス」ノ意見ヲモ參酌シ居レリ

- 二、佛案ハ會議前期ニ於テ遭遇セル困難ヲ考慮セリ而シテ右困難ニハ一般的ノモノト軍縮其ノモノニ關スルモノトノ二アリ

前者ハ國際聯盟カ其ノ主義及目的ニ於テ一般的ナルモ有效ニ活動セムトセハ世界各地域ノ特殊要求ニ應ジ異ナル解決ヲ與フルノ要アル點ニシテ相互援助ニ付テ殊ニ然リ

- 三、佛案ハ協定ノ多種性ヲ求メソノ最モ廣汎ナル部分不戰條約ヲ法律の見地ヨリ充分ニ擴充スルニアル處是カ爲ニハ再度ノ米國務卿聲明ヲ其ノ儘取入レ戰爭違法化ニ係ラス戰爭ニ訴ヘタル國ニハ交戰國トシテノ利益ヲ享有セシメ且一切ノ經濟的協力ヲ拒否スルト共ニ不戰條約ニ違反シテ得ラレタル一切ノ結果ハ其ノ領土ニ關スルモノト何タルヲ問ハス一切ノ國ニヨリ承認セラレサルヘキコトヲ豫メ知ラシムレハ足ルヘシ

- 四、第二ノ部分ハ右第一一部分ト關聯スルモノニシテ聯盟規約及「ロカルノ」條約ニシテ他方安全保障委員會ノ成果ヲ基礎トシ近接國間ニ相互援助條約ヲ結ハシム歐洲大陸諸國ノ如キハ此ノ種約定ヲナスニ最モ適當ナルヘシ

- 五、右相互援助條約中ニハ軍縮條約ヲ包含セシメ以テ(a)危機ニ際シ聯盟ノ使用ニ供セラルヘキ極メテ小數ノ常置軍ヲ設ケ(b)自國領域防護ノ爲ニスル兵力ヲ各締約國間ニ割當ツヘシ而シテ右割當ニ際シ如何ナル性質ノ兵力カ國際間ノ安全ヲ保持シツツ各國兵力ノ平等ヲ確保スルモノナルヤヲ決スヘキナリ

六、佛ハ「フーヴァー」案ヲ好意ヲ以テ迎ヘタルカ若干ノ留保ヲ之ニ加ヘサルヲ得サリキ兵力ノ性質ノ相異ハ同案ノ求ムル如キ大縮減ヲ困難ナラシムルモノニシテ現ニ人員委員會ハ右困難ニ遭遇セリ抑モ軍備カ相對的ナル以上縮減モ同シク相對的ナルヲ要スルノミナラス公平ナル比較標準決定ノ困難ヲモ認メサルヲ得ス

七、公平ナル計算ヲ行ヒ且軍事平等權ヲ認ムルカ爲ニハ地域の相互援助協定國カ同一性質ノ兵備ヲ有シ以テ常時且公平ナル軍縮ヲ可能ナラシムルヲ要ス而シテ傭兵制度ニヨル兵力ハ絶エス侵略ノ可能性ヲ示スモノト認メサルヲ得ス

八、佛案ハ近ク議長ノ裁量ニヨリ一般委員會ニ附議セラルヘキモ佛ハ如何ナル國ト雖モ實效的ナル監督ナクムハ軍縮ニ同意シ得スト信シ居レリ

二、佛國新提案及其ノ要旨

十一月十四日佛代表部ハ佛新提案ニ關スル覺書ヲ會議ニ提出セルカ其ノ要旨左ノ通り

一、佛案ハ既存諸提案特ニ「フーヴァー」案ヲ參酌セルモノニシテ會議ヲ新ナル方向ニ向ケントスルモノニ非ス

(イ) 會議當初以來ノ討議ニヨリ軍縮ハ規約第八條自體ノ認メ居ル如ク各國ハ勿論各大陸ノ地理的地位及特殊事情ヲ參酌スルニ非スムハ實現シ得サルコト

(ロ) 軍縮ト安全保障トハ並行スヘキコト明トナレリ

二、右ノ外會議ハ全會一致ヲ以テ攻撃力ヲ減少シ以テ防禦ヲ安固ナラシムル必要ヲ認メ人員ノ縮少並ニ器材ノ量的及質的縮少ヲ考慮セル處先ツ器材ノミニ就キテモ問題ハ解決殆ト不能ニ陥リ次テ人員ニ及フヤ編成ノ相違ヨリ來ル兵力比較ノ困難現ハレタリ

三、佛國全權部ハ軍縮會議ヲ成功ニ導カムカ爲ニハ問題ノ全般の審議ヲ必要トスルモノニシテ即チ或器材カ侵略ヲ容易ナラシムト定メンヨリハ寧ロ特定地域ニ於テ特定政治的條件ノ下ニ侵略的政策ノ實施ヲ困難ナラシムル軍事組織ノ態様ヲ定ムルノ緊要ナルヲ確信スルモノナリ右態様ヲ決定シタル上テ順次ニ當該地域ニ存スル各種軍隊ヲ之ニ合致セ

シムルコトヲ適當トスヘク右ハ會議難關打開ノ唯一ノ方法ナリ

四、佛國政府ハ軍備平等權カ提起セラレタル経緯及其ノ法律の根據ヲ非トセルモ未タ本問題カ軍縮會議審議事項ノ一タルコトヲ否認セルコトナシ佛全權部ハ其ノ提案ニヨリ一切ノ再軍備ヲ排除シ各國軍備ヲ漸次ニ平等ナラシムルコトニ依リ及共同動作組織ノ利益及負擔ニ對スル均等ノ參加ニ依リ本問題ノ公正ナル解決ヲ確信スルモノナリ

五、會議ノ解決スヘキ問題ハ右ノ如ク複雑且多樣ナルカ故ニ之ヲ一般のニ適用セラルル一案ヲ以テ解決セント試ムルハ徒爾ナリト信シ陸海空軍軍備ノ縮少及監督ニ關スル一般條約ノ外ニ歐洲軍縮問題ヲ解決スルニ足リ且歐洲ニ適用セラ

ルヘキ一ノ組織ヲ規定セントコトヲ提議ス

歐洲諸國ハ歐羅巴及各國ノ特殊事情ニ對應セル安全保障ニ關スル相互義務ノ對價トシテ制限、縮少及監督ニ關シ一層廣汎又ハ明確ナル相互措置ヲ定ムル協定ヲ結フヘシ佛國政府ハ右ノ如キ歐洲組織ヲ強固ナラシムルカ爲歐洲以外ノ諸國カ各自既ニ締結セル不戰條約又ハ聯盟規約ヨリ來ル保障ニ完全ナル效果ヲ與フルコトヲ受諾シ以テ右組織ノ適用ヲ可能ナラシメンコトヲ望ム右受諾アルニ非ナレハ佛案ノ實現ハ不可能ナリ尙佛案ハ不可分ノ一體ヲ成スモノナリ

提 案

第 一 章

一切ノ軍縮會議參加國ハ戰爭拋棄條約當然ノ結果トシテ一般ニ容認セラレタル左記諸原則ヲ有效ナル方法ニヨリ確立ス

ヘシ

(イ) 巴里條約ニ違反シタル戰爭ハ一切ノ國ノ關係事項ニシテ且各締約國ニ對シ負ヘル義務ノ違反ト見做サルヘシ

(ロ) 巴里條約ノ違反又ハ其ノ脅威アル場合ニハ前記諸國ハ輿論ニ訴ヘ及執ルヘキ措置協定ノ爲成ルヘク速ニ協議ヲ行フヘシ

(ハ) 戰爭ヲ違法トスル巴里條約ノ適用ニ依リ右條約違反ハ侵略國トノ直接又ハ間接ノ經濟的及財政的關係ノ禁止ヲ惹起

スヘシ

(二) 前記諸國ハ國際約定違反ノ結果ニ依ル既成事實ヲ承認セサルノ決定ヲ宣言スヘシ

第二章

前章記載諸原則ノ實施ハ規約及規約ニ基キ締結セラレタル諸條約(戰爭防止條約及財政援助條約)ニ依リ聯盟國ノ負フ義務ニ充分ナル效果ヲ與フヘシ

佛國ハ規約第十六條ノ有效且公正ナル適用ヲ以テ佛案ノ重要ナル要素ト思考ス

第三章

歐洲ニ對スル特別組織ハ政治條項及軍事條項ヲ包含ス尙「ロカルノ」條約ハ本組織ノ最初ノ實現ナルカ本案ニヨリテ何等影響ヲ受クルコトナキモノトス

右組織ハ先ツ各國ノ安全カ一切ノ場合ニ於テ確保セラルルニ充分ナル數ノ國ニヨリ受諾セラルルヲ要シ右ニ際シテハ受諾國ノ大小及地理的位置ヲ考慮スルモノトス

甲 節

政治條項ハ主トシテ歐洲組織ニ屬スル各國ノ協力請求權發生ノ場合ヲ定ム

(一) 本條項ハ一國領域カ攻撃又ハ侵略セラレタル場合ノ援助請求權ヲ定ム右ニハ反對ノ趣旨ノ條約ノ存在、正當防衛(即チ侵入排撃)規約第十六條ニ依ル行動、又ハ他ノ理由ニ依リ理事會又ハ總會ノ特別ノ承認アル行動等ノ場合ヲ含まス

(二) 援助ノ目的ハ侵略ノ終止及侵略ノ結果ノ正當ナル解決ヲ可能ナラシムル事實の狀態ヲ作ルニアリ

(三) 援助ノ許與ハ攻撃又ハ侵入ノ事實確認ニ依リ理事會之ヲ決定ス右確認ヲ容易ナラシムルカ爲各締約國ニ理事會ノ任命ニヨル該國駐在外交官及武官ヲ以テ組織スル審查委員會ヲ設クヘク脅威ヲ感シ又ハ侵略ノ犠牲トナリタル國ハ必要

ナル審查ヲ求ムル事ヲ得

(四) 歐洲協定締約國間ニ於ケル紛爭ノ平和的處理ハ仲裁裁判一般議定書ニ對スル義務の加入ニ依リ之ヲ確保ス平和處理手續又ハ仲裁判決等ノ實施ヲ拒ム國アルトキハ他ノ締約國ハ之ヲ理事會ニ通報シ理事會ハ適當ナル措置ヲ決定スヘク締約國ハ右決定ノ實施ニ付協力スヘシ

(五) 右決定ハ多數決ニ依ル

(六) 右二、三、四ニ掲クル援助ヲ速ニ供與スルカ爲締約國ハ乙節所定ノ軍隊編成ヲ受諾スヘシ

乙 節

軍事條項ハ前記政治條項ニ對應スルモノニシテ防備の平等ヲ基礎トシ

(一) 六月二十二日米案ノ原則ニ依リ各國軍備ノ攻撃の性質ヲ減少シ

(二) 規約第八條第一項及同第十六條第二項ニ掲クル共同動作中第一次のニ採ラルル行動ノ爲メニスル要素ノ「スベシアリゼーション」ヲ目的トス

一、

(イ) 歐洲大陸諸國ノ本國々境防備ニ充當スヘキ陸軍兵力ハ不意ノ攻勢ニ適應セサルカ如キ一般の單一形式(即短期服役且ツ制限セル人員ヲ以テスル國防軍ノ形式)ヲ採ラシム

兵員數及教育期間ハ規約第八條ノ規定ニ準據シ防禦性ヲ確保シ得ル様定ムヘシ

特ニ短期服役兵員數ノ制限ハ締約國ノ壯丁數ノ差異ヲ參酌スヘク教育年限ニ就テモ亦然リ尙教育年限ニ付テハ入營前ノ訓練又ハ例ヘハ政治的團體ニ於テ受ケタル軍事訓練ノ期間ヲ算入スルヲ要ス

(ロ) 乙節(二)ニ掲ケタル協同動作ノ爲ニスル「スベシアライズ」セラレタル特定ノ兵力ヲ除キ本國防禦兵力中ニ職業的兵員又ハ當該國軍隊ニ付定メラレタルヨリ長キ服役年限ノ兵ヨリ成ル部隊ヲ有スルヲ得ス

- (ハ) 「イ」所載兵力中ノ職業的又ハ長期服役人員(教官、特殊兵及幹部)ハ共通ノ基礎ニヨリ當該軍ノ兵員數ニ應シ制限ス
- (ニ) 軍事的性質ヲ有スル本國警察人員就中兵營ニ住居スルモノハ共通ノ計算基礎ニヨリ制限セラレ超過人員ハ「ハ」所載人員ノ同數ノ減少ニヨリ相殺ス
- (ホ) 各締約國ハ少クモ大威力移動兵器特ニ永久築城ノ攻撃ニ用ヒラルルモノ(大威力砲兵及大威力戰車)ヲ有スルヲ得ス

二、

- (イ) 各締約國ハ比較的長キ服役期間ヲ有シ且ツ各國兵力ニ保有ヲ禁止セラレタル大威力兵器ヲ有スル「スベシアライズ」セラレタル少數ノ部隊ヲ協同動作ノ目的ヲ以テ國際聯盟ノ爲常備ス
- 聯盟ノ要求アリ次第常設諮問委員會代表部ノ定ムル「プラン」ニヨリ甲節所載ノ援助ヲ速カニ與フルカ爲前記「スベシアライズ」セラレタル兵員ニ何時ト雖モ出動ノ準備ヲ了シ居リ且ツ同様「タイプ」ニヨリ構成セラルルヲ要ス
- 條約ハ各國ノ分擔兵力ヲ定ムヘシ
- (ロ) 右兵員ニ要スル通常ノ兵器ノ外各締約國ハ一所載禁止陸上移動兵器ヲ貯藏シ之ヲ國際監督ノ下ニ置クヘク右貯藏兵器ハ必要ニ應シ共同動作ニヨリ援助ヲ受クル當事國ノ使用ニ供セラル
- (ハ) 甲節所定ノ正當防衛ヲ行フ締約國ハ自國擔當兵員及自國領域ニ存スル貯藏兵器ヲ自由ニ使用スルヲ得ヘシ
- 三、兵器製造ニ付國際的ノ監督及組織行ハルルカ故ニ戰用器材ハ國防軍ニ屬スルモノタルト協同動作ノ爲ニスル部隊ニ屬スルモノタルト問ハス漸次ニ統一セラルヘシ
- 四、兵器ニ關スル義務ノ履行ノ爲締約國間ニ少クトモ年一回ノ調査ヲ伴フ定期的且ツ常設的監督機關ヲ組織ス
- 五、一般組織ハ上述ノ通ナルカ其ノ實現ノ階梯ハ軍縮會議ノ認ムル例外ヲ除キ各當事國ニ付キ人員及關係兵力ノ價值ニ

關スル必要ナル保證ヲ與ヘツツ而モ尙各國ノ兵力又ハ軍事費ヲ増加セサル様定メラルヘシ

第 四 章

海軍及海外領域兵力ハ大陸制度ニ依リ直接ノ影響ヲ受ケス

右兵力ハ主トシテ一方海外領域ノ保護、本國、植民地沿岸及海上交通ノ防衛ニ又他方第三章記載ノ協定ニ關係無キ國ノ海軍又ハ陸軍ノ兵力ニ關聯ス

然レトモ右ハ歐洲大陸ニ採用セラルヘキ陸軍縮少ト海軍及海外領域兵力軍備制限トノ相關關係ヲ不必要ナラシムルモノニ非ス故ニ海外兵力ハ嚴密ニ其ノ特殊ノ任務ニ應シ計算セラレ其ノ制限ハ一般條約ニ依リ定メラルヘキナリ

海軍兵力ニ付テハ其解決方法ハ安全保障ニ關スルト軍備制限ニ關スルトヲ問ハス一切ノ海軍國ニ均シク適用セラルル一般組織ニ入ルモノトス然レトモ華府會議ハ政治的性質ヲ有スル地方的協定カ海軍戰闘部隊ノ縮減ヲ容易ナラシムルニ利アルコトヲ示シタリ從テ第三章甲節記載ト類似ノ場合ニ於ケル各國艦隊ノ協力組織ニ關スル協定ニヨリ更ニ一層大ナル噸數ノ減少ヲ實現シ得ヘク右ハ關係海軍國間ニ地中海協定ノ締結セラルル場合ニ於テ特ニ然リ

陸軍軍備ト同シク海軍軍備ニ於テモ「フーヴァー」案ノ趣旨ニヨリ縮減ノ重點ハ特定艦型現有性能ノ質的軍縮ニヨリ最も攻撃的ナリト認メラレタル特定艦種ニ加ヘラルヘシ

量的縮減ニ關シテハ現狀ノ相對關係ヲ其儘トシテ噸數ノ實際的、積極的縮減ヲ爲スコト望マシク從テ總噸數十萬噸ヲ超エサルモノニ對シテハ特別方式ヲ用フルコトシ其ノ他ノモノニ對シテ協定セラルヘキ一律ノ縮減率ハ一九三一年ノ現狀報告ニ示サレタル總噸數ヲ基礎トシテ之ヲ一般ニ適用スヘキモノトス

軍備の見地ヨリスレハ海軍兵力ノ場合ニ於テハ一般兵力ト「スベシアライズ」セラレタル兵力トヲ區別スルノ要ナキモ第三章乙節(二)所載陸上ニ於ケル行動ヲ海上ヨリ補足スル爲海軍力ヲ有スル各締約國ハ被侵略國ヲ援助スル爲國際聯盟ノ要求アリタル場合直ニ緊急援助ヲ爲スヘキモノトス

右ノ援助兵力ハ條約ニヨリ豫メ規定セラレタル一定割合ノ各艦種ヲ含ムモノトス

第五章

空軍ハ海軍ト同様第三章記載大陸組織ノ直接影響ヲ受ケス

然レトモ空軍ノ縮減問題ニ關シテハ質的軍縮ニ關スル各國提案ノ結果トシテ會議ハ七月二十三日ノ決議中ニ非軍用航空ニ關スル特別ノ安全保障ヲ條件トスル空爆全禁ノ條項ヲ入レタルニ鑑ミ一般條約ノ範圍内ニ於テ最重要ナル進展ヲ見ルヘキコト可能トナレリ若シ歐洲(大陸國又ハ非大陸國)大空軍國ノ參加ニヨリ地方的組織ヲ見ルニ至ラハ航空問題ニ關シテハ一層有益ナル結果ヲ招來スルニ至ルヘキヲ信ス依テ佛國全權部ハ軍縮條約案ノ規定ニ加フルニ左記事項ヲ提案ス

(一) 七月二十三日決議ノ條件ニ基キ空爆ヲ禁シ爆撃機ヲ廢止スルコト

(二) 右ノ爲必要ナル規定ハ原則トシテ一般條約中ニ定メラルヘキモ歐洲ノミニ適用セラルヘキ空軍ニ關スル特別協定ニ依リ補足セラルルモノトス特別協定ハ特ニ「空中輸送歐洲聯盟」ノ創設等一般協定ノ一部ヲ爲ササル部分ニ關スルモノトス右協定ハ歐洲ニ於ケル空中輸送ノ管理及監督ヲ國際機關ニ委任シ民用航空ノ軍用轉化防止ヲ保障スルモノトス

(三) 航空ニ關スル義務ノ重大ニシテ之カ違反ヨリ生スル結果ノ深刻ナルヘキニ鑑ミ少クモ歐洲ニ於テハ右義務ノ履行ヲ保障スル爲必要ノ場合直ニ干涉シ得ヘキ實力アル實行手段ヲ國際聯盟ニ附與スルコト肝要ナリ而シテ陸上軍ノ場合ニ於ケルカ如ク一般ノ空軍兵力ヨリモ有力ニシテ優レタル航空機及裝備ヲ有スル特別空軍兵力ヲ聯盟ニ供用スルコト適當ナルヘシ

佛國及若干ノ全權部ハ右觀念ヲ更ニ進メ聯盟ニヨリ組織セラルル常設國際空軍ノ創設ヲ提唱セリ

右空軍器材ノ整備ハ各國空軍ニ於ケル爆撃機ヲ廢止シ之ヲ定メラルヘキ規定ニ從ヒ聯盟ニ引渡スコトニヨリ容易ニ實

行セラルヘシ又所要人員ハ一定ノ配分法ニヨリ各國民ノ志願者中ヨリ直接徵募充當セラルヘシ

三、佛新提案ノ解説

佛新案ニ關シ佛國代表部ノ發表セル説明要旨左ノ如シ

一、軍縮ヲ行フニハ攻撃力ヲ減少シテ防禦力ヲ増大スルコトヲ要スル處特定ノ地域及特定ノ政情ニアル軍事組織ノ形態ヲ定ムルコトハ侵略ヲ困難ナラシムヘシ佛國政府ハ世界のニ適用セラルル案ニテ凡ユル問題ヲ解決セムト試ムルハ無益ナリト思考スルヲ以テ軍備ノ制限縮少及監督ノ一般條約ノ外ニ歐洲ニ適用セラルヘキ組織ヲ規定スルコトヲ提議ス

第一章ハ一切ノ國家カ巴里協定ノ結果承認セラレタル原則ヲ確認シ且右協定ニ違反シテ行ハレタル戰爭ハ必然的ニ一切ノ國ニ關係アルモノナル事ヲ宣言ス又巴里協定ノ違反ハ侵略國トノ經濟及財政關係ノ禁止ヲ惹起シ且ツ列國ハ國際約定違反ノ結果タル如何ナル既成事實ヲモ承認セサルコトヲ約スヘシ

第二章ハ第一章ノ實施カ聯盟國ヲシテ聯盟規約殊ニ第十六條ノ義務ニ完全ナル效果ヲ與ヘシムルコトヲ明カニス

第三章ハ歐洲ニ關スル制度ナルモ右ハ少クトモ多數ノ諸國カ參加スルニ非サレハ實行不可能ナリ本章ハ同時ニ政治及軍事兩條項ヲ包含ス政治條項ハ各締約國カ他國ノ協力ヲ得ヘキ條件ヲ定ムルヲ第一ノ目的トス右相互援助ハ聯盟理事會ノ任命スル委員會ニ依リ攻撃又ハ侵入カ認定セラレタル時發動ス一切ノ締約國ハ一般議定書ニ參加スルヲ要ス一國カ紛爭ノ平和的處理方法ニ從フコトヲ拒否シ又ハ仲裁裁判決ノ履行ヲ拒否シ若クハ理事會ノ爲ス國際義務違反ノ認定ニ從フコトヲ拒否スル場合ニハ締約國ハ右決定ノ實行ニ協力スヘシ理事會ノ決定ハ多數決ニ依ル

軍事條項ハ「フーヴァー」案ノ原則ニ依リ國防軍ノ攻撃的性質ヲ減少スルト共ニ他方規約第八條及第十六條所定ノ協同作戰ノ場合ノ爲ニ其ノ若干ヲ特別化スルノ兩目的ヲ有ス第一ノ目的達成ノ爲ニハ歐洲大陸諸國陸軍ノ編成統一即チ短期ニシテ人員ヲ制限シタル軍隊ト爲スヲ要ス人員ハ規約第八條ニ依リ各國ノ特殊事情殊ニ徵兵適齡人員ノ不均衡、

軍事豫備教育及政治團體ニ於ケル軍事教育竝ニ本國ニ於ケル警察人員等ヲ參酌シテ決定スヘシ
國防軍ハ強力ナル移動兵器殊ニ永久城塞ヲ攻撃シ得ルカ如キモノハ所持スルヲ得ス他方各國ハ聯盟ノ用ニ供スル爲若
干長期ニシテ強力ナル兵器ヲ有スル特殊ノ軍隊ヲ維持スヘシ右特別ノ兵器ノ外國防軍ニ禁止セラルル移動兵器ハ國際
監督ノ下ニ各國内ニ貯藏シ必要ノ場合協同援助ヲ受クヘキ國ノ使用ニ供スルコトスヘシ
一國ハ正當防衛ノ場合ニハ其ノ維持スル聯盟用軍隊及前記貯藏兵器ヲ使用スルノ自由ヲ恢復スヘシ
各國兵器ノ統一ハ漸進的ニ行ヒ又少クトモ年一回ノ定期監督ヲ爲ス必要アリ

前記組織ハ各國共兵力又ハ軍費ノ増大ナキ様漸次實現セラルヘシ
第五章ハ第三章所定ノ大陸制度ニ直接關係ナキ海軍及海外兵力ニ關ス、海軍ニ付テハ地中海協定ノ如キ地方的政治協
定ハ軍艦ノ縮減ヲ容易ナラシムヘシ何レニセヨ「フーヴアー」案ニ基キ質的縮減ニ依リ最モ攻撃的ナル艦船ニ縮減ヲ
加フルノ要アリ

量の縮減ニ關シテハ軍備現在ノ相對性ヲ其ノ儘維持スルコト即チ一萬噸以下ハ別トシ一九三一年ノ總噸數ニ同一ノ縮
少率ヲ適用スルコト適當ナルヘシ

空軍ニ付テハ空中輸送ノ管理及監督ヲ一ツノ國際的團體ニ掌ラシメ以テ民用航空ノ軍用轉化ヲ防止センカ爲ニハ空中
輸送歐洲聯合ノ設立ヲ必要トスヘシ

第五章 英國外相「サイモン」ノ聲明

一、英外相「サイモン」聲明ノ要旨

英外相「サイモン」ハ十一月十七日ノ幹部會ニ於テ左記要旨ノ聲明ヲ爲セリ

一、佛 案

佛案ハ詳細且相關連セル一體ヲ成スカ故ニ今直ニ之カ批評ヲナスコトヲ差控ヘタシ
二、軍備平等權

吾人ハ茲ニ新ナル提案ヲナスニハ非スシテ軍縮會議目的貫徹ノ先決條件タル軍備平等權ノ問題ヲ解決シ以テ本會議カ
一切ノ參加國ニ依リ具體的軍縮案ヲ探究スルニ至ルコトヲ力メントスルモノナリ

本問題ノ内容ハ左ノ四項ニ要略スルヲ得ヘク獨ニ關スル所ハ埃勃洪ニモ等シク及フヘキモノナリ

(一)「ヴェルサイユ」條約ハ一方の行爲ニ依リ廢棄又ハ修正セラルヘキニ非ス

(二)平和條約第五編前文ハ獨逸ニ課セラレタル軍備ノ縮少ハ一般の軍縮ノ前提タルコトヲ規定セリ

(三)休戰以來若干國カ行ヒタル一方の軍縮ヲ輕視スル次第ニ非サルモ一方獨逸カ平和條約所定ノ制限ヲ受ケツツアルニ
反シ他方他ノ諸國ハ倫敦華府兩條約ニ依ル制限ノ外何等軍備縮少制限ニ關スル條約上ノ義務ヲ負ハス又獨逸カ保有ヲ
禁止セラレツツアル兵器ヲ所持シツツアリ

(四)獨逸ハ正式ニ聯盟國トナリ他ノ聯盟國ト對等ノ權利ヲ有スルハ明確ナル事實ナリ右ニ關シ既ニ存スル躊躇ハ劣勢ヲ
課セントスル希望ニ基クニハ非スシテ新シキ事態カ如何ニ歐洲ノ平靜ニ影響スルヤト恐怖ニ基クモノニシテ右ハ直
ニ本會議ニ影響ヲ及ホセリ如何トナレハ軍縮ノ主要目的ハ永續性アル平和ノ確立ニ資スルコトニアレハナリ
前記四點ニ對シ何人モ異議アリトハ信セラレサルカ之ヨリ生スル左ノ諸點ヲ會議ニ提起シタシ右ハ勿論既ニ提起セラレ
タル各國ノ案ニ相對スルモノニハ非スシテ軍備平等權問題解決ノ基礎條件タルモノナリ

一、一切ノ歐洲諸國ハ如何ナル場合ニ於テモ一切ノ現存又ハ將來ノ紛爭ヲ武力ニ依リテ解決セサルヘキ旨ノ嚴肅ナル聲
明ニ參加ス

歐羅巴軍縮ノ障礙ハ恐怖ノ點ニアリ獨逸ニ對シ道義上ノ平等權ヲ認ムルト同時ニ之ニ相當スル義務ヲ負ハシムルハ當
然ナリ

二、獨ノ軍縮ハ一般軍縮條約中ニ規定セラルヘク之ニ依リテ「ヴェルサイユ」條約第五編ノ諸規定ハ廢止セラル
 三、獨ノ右新軍備制限ハ一般軍縮條約ト同一ノ實施期間ヲ有シ且同一ノ改訂手續ニ附セラルヘシ
 四、獨逸ハ再軍備ノ意ナキモ他ノ國ニ許サル種類ノ兵器ハ等シク自國ニ對シテモ許サルヘシトノ主義承認ヲ希望スル
 處「ステータス」ノ平等ヲ認ムルトキハ質的平等ノ原則ヲモ認メサルヘカラサルヲ以テ英ハ之ヲ新條約中ニ掲クルノ
 用意アリ右原則適用ノ方法及階梯ハ獨逸ノ參加ヲ待チ壽府ニ於テ詳細審議セラルヘシ右ニ關シ(イ)平等ノ名ニ於テ軍
 備ノ擴張ヲナスヘカラサルコト(ロ)軍備平等ノ完全ナル實施ハ一舉ニ實施セラレサルコトノ二點ヲ強調セント欲ス吾
 人目下ノ任務ハ既ニ表明セラレタル原則問題ニ付協定スルコトニアリテ其ノ適用ニ關スル細則ノ如キハ後日ノ討議ニ
 待ツヘキ處英國政府ノ許シヲ得テ其ノ管テナセル提案實施ノ方法ニ付若干ノ說明ヲナスヘシ斯クノ如キ案ノ完全ナル
 成立ニハ若干ノ時ヲ要スヘク又實際的及政治的考慮ヲ必要トスヘシ其ノ地理的位置及其ノ兵力ノ責任如何ニ依リ大小
 一樣ナラサル各國ノ軍備ヲ均等ニスルコトハ容易ナル事業ニ非サルヘク又經濟的考慮ヲ加フルノ要アリ然レトモ華府
 倫敦條約ノ先例カ代換期間ヲ延長スルコトニ依リ造艦費ヲ少カラシメタル先例ニモ基キ漸次的ニ之ヲ行フヲ賢トスヘ
 ク吾人今次ノ任務ハ其ノ第一階梯ノ「プログラム」ヲ定ムルニアリト思惟シ左ヲ提議セントス

甲、質的軍縮

一、海軍

(イ) 英國政府ハ目下主タル海軍國ト主力艦艦型ノ縮少ニ付交渉中ナルカ他方獨逸ニ對スル平等權附與ノ結果大海軍國
 ニ許サルヘキト同様ノ艦型ノ艦船建造ヲモ許スコトナルヘキ處右ハ現ニ制限セラレアル艦種ニ於ケル總噸數ノ範
 圍内ニ於テ行ハルヘキコト勿論ナリ

(ロ) 英カ略々獨逸ニ對スル制限ノ如ク巡洋艦ヲ艦型七千噸備砲六吋ニ制限スル用意ヲ有スルコトハ既ニ聲明セル所ナ
 リ

(ハ) 英ハ屢次潛水艦廢止ヲ強調シツツアリシ處右ニシテ實施セラレンカ軍縮及世界平和ニ對スル寄與ハ大ナルヘク之
 ト同時ニ獨逸ニ對スル平等權ノ問題モ此ノ點ニ關シ最良ノ解決ヲ見ルヘシ

二、陸軍

(イ) 「タンク」

特ニ攻撃的ナル兵器ヲ禁止スヘシトスル「フリーヴァー」案ノ趣旨ニ賛成シ攻撃的兵器ト認メ得サル輕「タンク」ヲ
 除キ大型ノモノヲ禁止セントス本點ニ關シテモ平等權ノ適用問題ハ獨逸代表ヲ加ヘタル討議ニ於テ壽府ニ於テ審議
 セラルヘシ

(ロ) 移動重砲

平和條約ハ獨逸ノ移動重砲最大口徑ヲ百五耗トナシ居ル處本會議ニ於テハ討議ハ百五十五耗前後ニ於テ行ハレ居レ
 リ若シ右百五耗ヲ以テ條約上ノ限界トスルニ於テハ將來之ヨリ低下セシムルコト可能ナルヘシ

三、空軍

一切ノ爆撃機廢止セラルルニ於テハ遂ニ爆撃廢止ヲ可能ナラシムルモノナリトナスモノアルモ爆撃用トシテ建造セラ
 レサル航空機ト雖モ右用途ニ使用シ得ラルルカ故ニ警察用ノモノヲ除キ軍用機及爆撃ノ全廢ヲ協定スルト共ニ他方民
 用航空ノ實效的ナル國際監督ヲナスニ非スシハ其ノ目的ヲ達シ難シ右ノ如キ「プログラム」ノ至難ナルハ明カナルモ
 英國政府ハ主要空軍國ト共ニ右ノ如キ「プラン」ノ實行性ニ付慎重審議ヲナスノ用意ヲ有ス此ノ機會ニ於テ英國空軍
 兵力ハ其ノ責任範圍極メテ大ナルニモ拘ラス僅カニ世界第五位ヲ占ムルニ過キサルモ他ノ諸國ニ於テ空軍縮減ノ意ア
 ルニ於テハ更ニ自ラモ縮減ヲ行フヘク右ニ關連シ左ノ提案ヲナス

(一) 主要國ノ空軍ヲ速ニ英ノ「レヴェル」迄縮減スルコト
 (二) 右ノ如ク縮減セラレタル一切ノ國ノ空軍ノ三割三分縮減

- (三) 一般的協定可能ナル最小限度ニ自重ヲ制限スルコト右數字ハ今後更ニ低下セラルルコトトシ以テ漸進的軍縮ノ原則ヲ適用セシムルモノトス英國政府ハ獨逸カ軍用航空機ノ所有ヲ要求セサランコトヲ期待ス

乙、量の制限

本問題ハ慎重ナル交渉ヲ要スルモノニシテ此ノ際ハ單ニ人員問題ニ言及スルニ止ムヘキ處此ノ點ニ關スル平等權ノ適用ハ軍縮ノ原則ニ反セサル様換言スレハ獨逸ニシテ若シ義務的徵兵制度ヲ採用ストセハ毎年義務的ニ「ミリシア」トシテノ訓練ヲ受クル壯丁數ハ今後協定セラルヘキ割合ニ依リ長期勤務兵ノ數ヨリ控除スルヲ要スヘシ又十二年ノ長期勤務期間ヲ半減スルコトハ右兵種豫備兵ノ數ヲ増加セサルコトヲ條件トスヘシ要スルニ獨陸軍兵力ノ編成變更ハ其ノ軍事の侵略力ノ増大ヲ齎スモノナラサルコトヲ要ス英國政府ハ陸海軍人員ニ關スル「フーヴァー」案ヲ討議ノ基礎トシテ受諾スルノ用意アリ

丙、取締並監督

監督ニ關スル七月二十三日一般委員會決議ヲ大體ニ於テ受諾スルモノニシテ本會議參加國ノ一切ニ依リ受諾セラルヘキ條件ノ下ニ實效的ナル監督ノ實施ノ必要ナルコトヲ確信ス會議ハ今ヤ轉換期ニ達セリ軍縮問題ノ細目ヲ機械的ニ探究スルモ平和追求ノ意ナクシハ何等具體的結果ニ到達スルヲ得サルヘシ

二、右「サイモン」ノ聲明ニ關シ英代表部ノ公表セル説明要旨左ノ如シ

- (一) 英提案ハ主トシテ獨逸政府ノ平等權要求ニ依リ惹起セラレタル困難ヲ排除スルヲ目的トス
 「ヴェルサイユ」條約ハ其ノ署名國全部ヲ拘束スルモノニシテ其ノ變更ハ署名國ノ一致ニ依ラサルヘカラサルト共ニ右條約ニ於テ獨逸ニ課シタル軍縮ハ未タ實現セラレサル一般の軍縮ノ前提ナリ
 (二) 英案ハ先ツ歐洲諸國カ如何ナル場合ニモ紛爭解決ノ爲武力ニ訴ヘサルコトヲ宣言センコトヲ求ム
 (三) 平等權ノ承認ニハ武力不行使ノ義務ヲ必要トス獨逸ノ要求ハ再軍備ヲ齎ラササル限度ニ於テ承認セラルヘク又對

獨軍縮ハ他國ノ軍縮ヲ規定スル同一條約中ニ規定セラルヘシ又新條約ハ他國ニ許サル兵器ハ獨逸ニモ許與セラルヘシトノ原則即チ質の平等ノ原則ハ之ヲ認メサルヘカラス

- (五) 尤モ現在ハ兵器ノ種類ノ問題ニシテ其ノ數ノ問題ニ非ス兵器ノ數ノ問題ハ別箇ニ且ツ後日審議セラルヘキモノナリ

- (六) 軍縮會議ノ目的ハ一般ノ贊同ヲ得ヘキ軍縮ノ最大限ヲ實現スルニアリテ平等ノ名ノ下ニ兵力ノ増加ヲ許スヘキニ非ス又平等ノ原則ヲ完全ニ適用スルコト必要ナルモ右ハ實際ニ於テ急速ニ實現スヘキモノニ非ス

- (七) 會議ノ任務ハ第一段階ノ計畫ヲ作成シ且出來得レハ第二段階ノ大綱ヲ定ムルニアリ
 (八) 英國政府ハ前記ノ原則適用ノ爲若干ノ方法ヲ提議セリ

- (九) 獨逸ハ大海軍國ノ採用スヘキ艦型ニ等シキ軍艦ヲ建造スルヲ得ヘシ一萬噸ナル數字ハ戰艦ニ對スル制限トシテハ一般ノ受諾ヲ得サルヘキモ軍縮ノ思想ニ逆行セサルノ原則ニ依リ獨逸ハ現在ノ制限總噸數ヲ超過シテ建造スルヲ得ス

- (十) 英國政府ハ略々對獨制限ト同様巡洋艦ヲ七千噸六吋ニ制限スルノ用意アリ潛水艦ニ付獨逸ノ要求ニ満足ヲ與フル最良ノ方法ハ其ノ全廢ナリ

- (十一) 一定重量以上ノ戰車ハ全廢シ右制限ハ攻撃用ニ特ニ適當ナル戰車カ禁止セラルル様定ムヘシ平等待遇ヲ認ムルニ於テハ獨逸ニ戰車ノ若干ヲ所有セシメサルヘカラス

- (十二) 移動重砲ニ關シ獨逸ニ平等待遇ヲ與フル方法ハ其ノ最大口徑ヲ一般ニ縮少シテ一〇五「ミリ」トスルニアリ

- (十三) 空軍ニ關シテハ英政府ハ軍用機全廢及空爆全禁(民用航空ノ實效的監督方法ヲ講シ)ノ用意アリ又軍縮ノ實際的方法トシテ大國空軍ノ英國程度ニ縮少即チ世界空軍ノ三十三「パーセント」三分ノ一減及軍用機自重ノ制限ヲ提唱ス右ヲ實行スルニ於テハ獨逸ハ陸軍機又ハ海軍機ヲ要求スルコトヲ差控フルコト當然ナルヘシ

(五) 平等待遇及兵力調整ノ自由ニ關スル獨要求ノ主義上ノ承認ハ軍備ノ制限及縮少ノ主義ニ背馳セストノ條件ニ懸ルモノナリト思考ス例ヘハ獨逸カ義務兵役禁止ノ現在制度ヨリ脱セムト欲スルニ於テハ每年民兵義務教育ヲ受クル人員ヲ適當ノ比率ニ依リ長期兵ノ數ヨリ差引カサルヘカラス又十二年兵役ヲ六年兵役ニ改ムルニ於テハ長期勤務ヲ爲セル豫備兵力増加セサル様ニセサルヘカラス此ノ場合ニハ長期兵ハ十萬ヨリ五萬ニ縮減セラルヘキナリ適用スヘキ率ニ付テハ詳細計算ヲ要スルモ獨逸軍隊ノ編成替ニ依リ其ノ軍事進攻力ノ増加ヲ來スヘカラストノ大原則ハ維持スルヲ要ス

第六章 海軍軍縮ニ關スル帝國提案

一、帝國提案ノ提出

帝國政府ハ海軍問題ニ關スル折衝上米ノ「フリーヴァー」案及英ノ「ボールドウィン」案ニ對應シ軍縮協定ノ妥結ヲ容易ナラシメ且ツ我方ノ地歩ヲ有利ナラシムルノ目的ヲ以テ帝國獨自ノ提案ヲ爲スニ決シ十二月五日松平佐藤永野三全權ヨリ夫々英米佛伊ニ之ヲ内示シ十二月九日「ヘンダーソン」議長ニ對シ文書ヲ以テ帝國提案ヲ提出セリ案ノ内容左ノ如シ

海軍軍備縮少制限ニ關スル帝國提案

帝國政府ハ國際平和ヲ確保スヘキ軍縮事業ノ實現ニ對シテハ最も大ナル關心ヲ有シ今次一般軍縮會議ニ於テモ關係各國ト協力シテ軍縮事業ノ成功ニ寄與セムカ爲最善ノ努力ヲ致シ來レリ今次會議ニ於ケル各國ノ提案就中米國大統領「フーヴァー」氏及英國政府ノ提案ニ付テハ其ノ發意ニ對シ帝國政府ハ衷心敬意ヲ表シ慎重考慮ヲ加ヘタルモ其ノ内容ニ於テ帝國政府ノ受諾シ得サル點アルヲ以テ海軍軍縮問題ニ關スル其ノ見解ヲ開示セント欲ス

帝國政府ハ海軍軍備ノ質的及量的縮減ニ當リテハ曩ニ一般委員會ニ於テ決議シタル軍縮ノ原則軍縮ノ基準及質的軍縮ノ

原則ノ三大決議ニ立脚シ進攻のニシテ攻撃威力大ナル兵力ノ縮減ヲ圖ルト共ニ各國ノ地理的地位及特殊事情ヲ充分ニ考慮シ各國ノ安全感ヲ害セサル様現實ノ狀況ニ即セル公正ニシテ合理的ナル解決ヲ期スルヲ以テ今後會議指導ノ原則トラスムヘキコトヲ要求ス

次に協定方法ハ會議ヲ成功セシムル上ニ於テ最も考慮ヲ要スルモノナル處今次會議ノ如ク全世界各國ノ參加セル大會議ニ於テ相互ニ自國ニハ關係ナキ問題又ハ微細ナル問題迄モ一々全參加國間ニ於テ討議シ一舉ニ全般ニ亘ル協定ヲ遂ケムトスルカ如キハ實際上不可能事ニシテ會議ノ成功ヲ期スル所以ニアラス故ニ帝國政府ハ今後ノ海軍問題ノ討議ニ於テ前記會議指導ノ原則ノ實現ニ適合シ會議ノ進捗ヲ容易ナラシメ其ノ目的達成ヲ確保スル爲有效ニシテ實際的ナル順序方法トシテ協定ノ大綱ハ七月二十三日ノ一般委員會決議ニ於テ考慮セラレタルカ如ク日英米佛伊間ニ豫メ商議スルコトトシ次に協定ヲ一般協定及特別協定ノ二階段ニ區分シ以テ一般的事項ヨリ局部的細微的事項ニ移ルノ形式ヲ執リ又海軍兵力ヲ強力ニシテ相對的性質濃厚ナル兵力即チ主力艦航空母艦及甲級巡洋艦ト地理的地位及特殊事情ニ至大ノ關係ヲ有シ防禦上並ニ警備上必要ナル兵力即チ主トシテ乙級巡洋艦驅逐艦及潛水艦トニ區別シ一般協定ニ於テハ各種艦船ノ質的縮減並ニ五大海軍國ノ主力艦航空母艦及甲級巡洋艦ノ量的縮減ヲ行ヒ以テ極力攻撃威力ノ削減ヲ計リ尙五大海軍國ニ通スル乙級巡洋艦以下ノ最大限度保有量ヲ定ムルコトトシ特別協定ニ於テハ利害關係密接ナル國家間毎ニ乙級巡洋艦驅逐艦及潛水艦ノ量的縮減ヲ行ヒ次テ各國ノ地理的位置特殊事情等ヲ充分考慮ニ入レ協定ノ公正ヲ期シ得ヘカラスムルコトト爲スハ此ノ際實施スベキ最も實際的ナル方法ナリト信ス

帝國政府ハ以上ノ見地ニ基キ全世界各國間ノ協定ノ基礎タラシムルニ最も合理的ニシテ且實際的ナル方法トシテ左ノ提議ヲナサントスルモノナリ

(A) 一般協定

一般協定ハ艦船ノ質的縮減及日英米佛伊ノ五國ノ攻撃威力大ナル艦船ノ量的縮減ヲ協定シ尙右各國ニ通スル乙級巡洋艦以下ノ最大限度保有量ヲ協定スルヲ目的トス

- (一) 各艦種ノ艦型及備砲ノ制限縮少ヲ協定ス
- (二) 日英米佛伊ノ五國ノ主力艦航空母艦及甲級巡洋艦保有量ノ制限縮少ヲ協定ス
- (三) 日英米佛伊ノ五國ノ乙級巡洋艦驅逐艦及潛水艦保有量ハ右各國ニ通スル最大限度ノ保有量ヲ本一般協定ニ於テ定メ右各國ノ實際ニ保有スヘキ量ハ特別協定ノ分類ニ從ヒ各國ノ屬スル組ニ於テ夫々ノ關係國間ニ現實保有量ヲ標準トシ其ノ地理的地位特殊事情等ヲ考慮シ前記最大限度ノ範圍内ニ於テ出來得ル限り縮少スルコトヲ協定ス
- (四) 日英米佛伊ノ五國以外ノ各國ノ保有量ハ各國ノ現實保有兵力量ヲ標準トシ其ノ地理的地位特殊事情等ヲ考慮シ特別協定ニ於テ制限縮少スヘキコトヲ協定ス

(B) 特別協定

特別協定ハ全世界ノ各國ヲ概ネ太平洋組、大西洋組、歐洲組、南米組ニ區分シ一般協定ニ於テ定メタル所ヲ基礎トシ主トシテ各國ノ實際保有スヘキ兵力量(日、英、米、佛、伊ハ乙級巡洋艦以下ノ保有量)ニ關シ各組毎ニ制限縮少ヲ協定ス而シテ二組以上ニ跨リ密接ナル關係ヲ有スル國ハ其ノ關係組ノ協定ニ參加ス

抑々今次會議過去六ヶ月間ノ討議ヲ通シ全世界各國ノ一般的一致ヲ見タル最重要ナル點ハ攻撃力ヲ弱メ防禦力ヲ増サシメムトノ基礎原則ニ基キ採擇セラレタル質的軍縮ニ關スル原則ナリトス故ニ帝國政府ハ先ツ專門委員會ニ於テ壓倒の大多數國カ進攻のニシテ國防破壊ニ有效ナルノミナラス非戦闘員ニ脅威ヲ與フルモノナルコトヲ認メタル航空母艦ノ全廢ヲ主張シ且各艦種ヲ通シ艦型ノ縮小就中威力大ナル主力艦及甲級巡洋艦ノ艦型縮小ヲ要求セムトス

次ニ攻撃力ヲ減少シ防禦力ヲ増大セシムヘシトノ基礎の原則ハ必然のニ優勢海軍國ニ對シ劣勢海軍國ニ比シ一層大ナル犧牲ヲ適用セシムヘキモノナルコトヲ要求スルモノニシテ眞ニ軍縮ノ實行ヲ期セムトセハ前者ハ自ラ率先シテ他國ニ比シ一層大ナル削減ヲ行フノ覺悟ヲ有セサルヘカラス殊ニ兩者ヲ通シ同一率ノ縮減ヲ行ハムトスルカ如キハ其ノ縮減ノ大ナルニ伴レ劣勢海軍國ノ安全ヲ害スルノ程度愈々大ナルヘシ故ニ主力艦及甲級巡洋艦ノ如キ相對的性質濃厚ナル艦種ノ縮減ニ當リテハ特ニ此ノ點ヲ考慮シ劣勢海軍國ノ安全感ヲ傷ケサルヲ要ス

乙級巡洋艦及驅逐艦ハ他國ノ兵力ト相對的關係比較的薄ク大ナル進攻的威力ヲ有セス戰時ニ於テハ沿岸防禦及交通線保護上又平時ニ於テハ警備上等地理的狀況ニ依リ其ノ所要量ハ主トシテ各國自主のニ決セラルヘキモノナリ又潛水艦ハ海軍委員會ニ於テ大多數ノ代表力認メタルカ如ク防禦的ニシテ進攻的性質ヲ有セス且他國ノ同種兵力ト相對關係ヲ有スルコト極メテ薄ク劣勢海軍國ノ防禦上必須ノ兵力ニシテ其ノ所要量ハ專ラ各國ノ防禦の立場及地理的地位ニ依リ自主のニ決定セラルヘキモノナリ即チ乙級巡洋艦以下ノ艦船ノ保有量ハ主トシテ各國ノ地理的地位及特殊事情ヲ重視シ決定スヘキモノナルヲ以テ各國ノ實際保有スヘキ量ハ特別協定ニ於テ之ヲ決定シ一般協定ニ於テハ各國ノ容認シ得ル共通ノ最大限度ヲ以テ協定セムコトヲ要求セムトスルモノナリ

右ノ考慮ニ基キ帝國政府ハ左ニ一般協定ノ具體案ヲ提示セムトス

具 體 案

- (一) 將來建造ノ各艦種ノ艦型及備砲ノ最大限ヲ左ノ通制限縮小ス
- 主力艦 二萬五千噸、一四吋 (三五、五厘) 砲
- 甲級巡洋艦 八千噸、 八吋 (二〇、三厘) 砲
- 乙級巡洋艦 六千噸、 六、一時 (一五、五厘) 砲
- 驅逐艦(嚮導驅逐艦ヲ含ム) 一千五百噸、五、一時 (二三厘) 砲
- 潛水艦 一千八百噸、五、一時 (二三厘) 砲
- 航空母艦ヲ全廢シ且艦船ニ飛行機著艦用ノ臺若ハ甲板ヲ裝備スルコトヲ禁ス
- (二) 日、英、米、佛、伊ノ五國ノ主力艦及甲級巡洋艦ノ保有量ハ左ノ通縮小ス
- 主 力 艦

日 本	二十萬噸	八 隻
英 國	二十七萬五千噸	十一隻

米 國 二十七萬五千噸 十一隻
佛國及伊國ハ十五萬噸（隻數任意）ヲ最大限度トシ其ノ範圍内ニ於テ各ノ實際保有スヘキ量ヲ關係國間ニ於テ協
定ス

甲級巡洋艦

日 本

八萬噸

十隻

英 國

九萬六千噸

十二隻

米 國

九萬六千噸

十二隻

佛國及伊國ハ五萬六千噸（七隻）ヲ最大限度トシ其ノ範圍内ニ於テ各ノ實際保有スヘキ量ヲ關係國間ニ於テ協
定ス

(三) 日、英、米、佛、伊ノ五國ノ各國ニ通スル乙級巡洋艦驅逐艦及潛水艦ノ最大限度ノ保有量ヲ左ノ通定ム

乙級巡洋艦

十五萬噸

驅逐艦

十五萬噸

潛水艦

七萬五千噸

之ヲ要スルニ帝國政府ノ提案ハ全世界輿論ノ是認セル軍縮ニ關スル原則ヲ基調トシ軍縮事業ノ目的ヲ達成スルニ
公正合理的ニシテ實際的ナル解決方法ヲ提出シ會議ノ成功ニ寄與セムトスル誠意ヲ披瀝セルモノニシテ他海軍國
ニ於テ之ヲ受諾スルニ困難ナカルヘキヲ信スルノミナラス之ニ依リ關係各國民ノ軍事實費負擔ヲ輕減セシムルコト
莫大ナルモノアルヘク眞ニ恒久的世界平和ノ確立ニ寄與スルノ途ナリト確信スルモノナリ

二、帝國提案發表ノ際ニ於ケル内田外務大臣談左ノ如シ

今般書府ヲ發表ニナツタ海軍問題ニ關スル帝國提案ノ内容ハ別項ノ通テアリマスカ右提案ハ今次一般軍縮會議開催以來

發表セラレタル關係各國ノ要求ヲ能フ限リ考量ニ入ルルト共ニ攻撃的勢力ヲ弱メ防禦的勢力ヲ強メムトスル軍縮會議ニ
於テ一般ニ認メラレタル原則並ニ世界輿論ノ趨勢ニ基キ爲サレタルモノテアリマス我軍縮提案ハ他國ノ同種提案ニ比シ
實現可能性ニ付最考究ヲ遂ケタルモノテアルト共ニ他國ノミヨリ大ナル犠牲ヲ要求セルモノテハアリマセン從テ各國カ
我提案ヲ充分研究スルニ於テハ我方要求ノ公正ナルモノテアルコトヲ好ク了解シ得ヘキモノテアルコトヲ確信スルモノ
テアリマス

我方提案ハ航空母艦ノ全廢ヲ始メ世界ノ海軍軍備ニ對シ重大ナル縮減ヲ加ヘムトスルモノテアリマシテ之カ採用ヲ見ル
ニ於テハ各國財政ノ上ニ及ホスヘキ負擔輕減ハ實ニ莫大ナルモノカアルノミナラス今後世界各國間相互信頼ハ一層促進
セララルコトトナルヘシ從テ關係國ニ依ル我提案ノ受諾ハ今次ノ國際聯盟主催ノ一般軍縮會議ニ最意義アル成果ヲ齎シ
以テ世界恒久平和ヲ確立セシムルノ所以ナルヲ信シテ疑ハナイ次第テアリマス

三、帝國提案ニ關スル海軍大臣談左ノ如シ

(一) 帝國政府ハ國際平和ヲ確保シ國民負擔ノ輕減ヲ計ラントスル崇高ナル目的ヲ有スル軍縮事業ノ遂行ニ對シテハ最モ
大ナル關心ヲ有シ今次一般軍縮會議ニ於テモ之カ爲關係各國ト協力シテ最善ノ努力ヲ爲シ來レリ而シテ今次會議ノ情
勢ヲ顧ミルニ本年二月會議開催以來一般委員會ニ於テ會議指導ノ方針ヲ律スヘキ重要ナル諸決議採擇セラレ又英米佛
ヲ始メ各國ニ依リソレソレ獨自ノ提案行ハレタリト雖世界各國ニ適用スヘキ公正合理的ニシテ且實際的ナル解決案ヲ
得ルコト甚タ困難ナル情況ニアリ若シ現狀ノ儘推移スルニ於テハ軍縮會議ノ事業ハ何等ノ進展ヲ見サルノミナラス却
テ事態ヲ紛糾セシムルノ恐レナシトセス一方海軍軍備ニ關シテハ去ル七月二十三日一般委員會ノ決議ニ於テハ會議ハ
日英米佛伊五國ニ對シ相會合シ新ナル海軍軍備縮少方法ニシテ軍備縮少ノ一般綱領ノ一部トシテ實現セラレヘキモノ
ニ關スル報告ヲ提出スルコトヲ求メタリ敍上ノ趨勢ニ鑑ミ帝國政府ハ海軍軍縮問題ニ關シ從來ヨリ抱懷セル誠意ト所
信トニ基キ豫テ研究セル實際的軍縮方法ヲ此際提示スルコトハ帝國トシテ會議ノ成功ニ寄與スルノ責任ヲ盡スニ最モ

忠實ナル所以ニシテ且機宜ニ適シタル措置ナリト信シ茲ニ新提案ヲ行ハントスルモノナリ

(二) 帝國提案ハ軍縮上特ニ重要ナル左ノ諸項ヲ基調トシ作製シタルモノナリ

(イ) 今次軍縮會議ニ於テ採擇セラレタル諸決議ヲ尊重シ且各國ノ提案主張等ヲ出來得ル限り考慮セルコト

(ロ) 各國ノ地理的地位並特殊事情ヲ參酌セルコト

(ハ) 攻撃力ヲ弱メ防禦力ヲ増加スヘシトノ原則ニ則リ質的及量的の兩方面ニ亘リ能フ限りノ縮減ヲ行ヘルコト

(ニ) 各國ノ實在兵力ヲ尊重シ之ヲ標準トシテ縮減ヲ行ヒ此ノ場合優勢軍備ハ寡勢軍備ニ比シ一層大ナル縮減ヲ爲セルコト

即チ帝國提案ハ最モ公正合理的ニシテ各國國防ノ安固ヲ確保シ得ルハ勿論實質的軍縮ノ實現ヲ期シ得ル最良案ナルヲ以テ之ニ依リ今次軍縮會議開催以來ノ幾多難問題ヲ解決シ軍縮條約ノ妥結ヲ容易ナラシメ得ヘキヲ疑ハス

(三) 帝國提案ハ其ノ内容ニ於テ一般協定及特別協定ナル新様式ヲ案出採用シ以テ協定手續ヲ簡單且實際的ナラシメ更ニ兵力縮減ノ具體的數量ヲ卒直ニ明示シ以テ縮減ノ實效ヲ期シ得ヘカラシメタルモノナリ我提案ニ依レハ航空母艦全廢並主力艦及甲級巡洋艦ノ縮減ノミニ依リテモ五大海軍國ノ縮減量ハ總計約百三十萬噸ニ上リ更ニ乙級巡洋艦以下並右五國以外ノ海軍兵力縮減量ヲ加味スルトキハ一層大ナル縮減ヲ期待シ得ヘク以テ世界各國ノ熱烈ナル軍縮ノ希望ヲ満足セシメ得ヘキモノト認ム

(四) 華府軍備制限條約ハ一九三六年末ヲ以テ期間滿了セントシ又倫敦條約第三編ハ日英米三國ノミニ關シ一九三六年末ヲ限り協定セラレタル暫定的事項ナルヲ以テ兩者共ニ近ク何等カノ形式ニ依リ當然改定セラルヘキモノナル處帝國提案ハ今次會議ノ本質ニ鑑ミ最モ普遍的ニシテ且永續性ヲ有セシムヘキ一般軍縮條約案ノ基礎タルニ適スルハ勿論又以前記兩條約ニ代用セラルヘキ海軍軍縮ノ具體案トシテ最適ナルモノナリト認ム

(五) 要スルニ帝國提案ハ攻撃の勢力ヲ弱メ防禦の勢力ヲ強メントスル世界ノ輿論ニ基礎ヲ置クモノニシテ各國ニシテ本

案ヲ慎重考究センカ其ノ真意ヲ容易ニ了解シ得ヘク而シテ一度本案ニシテ各國ノ受諾スル處トナランカ今後世界各國間ニ於ケル相互信頼ヲ一層促進シ各國國民ノ負擔輕減ニ資スルコト莫大ナルモノアルヘシ即チ斯クノ如クシテ始メテ今次軍縮會議ヲシテ最モ意義アラシメ世界恒久平和ノ確立ニ寄與セシムル所以ナリト確信ス

第七章 五國協定ノ成立ト獨逸ノ會議復歸

軍備平等權解決ノ爲英米佛獨伊等ノ主要國間ニ外交交渉行ハレ英國政府ハ英佛獨伊四國會議ヲ提唱シタルモ會議地問題等ノ爲議纏ラサリシカ結局「マクドナルド」首相、「サイモン」外相、「ノルマン、デヴィス」ハ十二月二日「エリオ」首相ハ三日獨逸外相「ノイラート」ハ五日何レモ來壽シ五日ヨリ英米獨佛伊五國ノ間ニ會談行ハレ十日漸ク「マクドナルド」ノ宿舍ニ於テ五國宣言署名セラレタリ右宣言ハ「マクドナルド」首相ヨリ十一日「ヘンダーソン」議長ニ通告セラレ十二月十四日ノ一般委員會ニ上程セラレタルカ獨逸代表ハ右一般委員會ヨリ會議ニ參加セリ

五國宣言ノ要旨左ノ如シ

一、英佛伊三國政府ハ軍縮會議ノ指針タルヘキ一原則ハ一切ノ國ニ安全保障ヲ齎スヘキ制度ノ下ニ獨逸其ノ他平和條約ニ依リ軍縮ヲ行ヒタル諸國ニ權利ノ平等ヲ附與スヘキコト及右原則ハ軍縮條約中ニ表現セラルヘキコトヲ宣言セリ

右宣言ハ一切ノ國ノ軍備制限ヲ右軍縮條約中ニ記載スヘシトノ意味ヲ包含ス尙平等權適用ノ様式ハ今後會議ニ於テ討議セラルヘキモノトス

二、右宣言ニ基キ獨逸ハ軍縮會議ニ復歸スヘキコトヲ通告セリ

三、英佛獨伊ノ四國政府ハ一切ノ歐洲諸國ト共ニ如何ナル場合ニ於テモ紛争ノ武力解決ヲ試ミサルヘキコトヲ嚴肅ニ再確認スルノ用意アリ右宣言ハ安全保障問題ノ討議ヲ妨クルモノニ非ス

四、米英佛獨伊ノ五國政府ハ軍備ノ大縮減ヲ實現シ且將來ノ新ナル縮減ニ關スル改訂條約ヲ含ム條約ノ作成ニ遲滯ナク努

カスルノ決意ヲ有ス

第八章 英國議事手續案

昭和八年ニ入りテハ一月二十三日ヨリ三十一日迄幹部會ヲ開催監督、化學兵器等ノ問題ヲ審議シタルカ英國代表部ハ議事進行方法ニ關シ左記要旨ノ提案ヲ幹部會ニ提出セリ

一、一般及政治事項

「幹部會」ハ速カニ左ノ事項ニ關スル實際的討議ヲ組織ス

(一) 一切ノ歐洲國間ニ於ケル國際紛爭解決ノ爲ニスル武力行使拋棄

(二) 歐洲大陸國間ニ於ケル相互援助協定

(三) 舊平和條約軍事條項ノ廢止(一般軍縮條約ヲ以テ之ニ代フ)

(四) 一般軍縮條約實施期間(右ハ舊敵國ニ對スルト否トヲ問ハス一切ノ締約國ニ付同一タルヘキモノトス)

(五) 質的軍備平等權(附右平等權實現ノ體様及歐洲大陸陸軍編成様式統一問題)

但前記(一)ハ「政治委員會」ニ又(二)ハ歐洲大陸諸國代表ヨリ成ル委員會ニ附議スルモノトス

二、軍縮事項

(一) 陸軍人員

(イ) 大體ニ於テ「フーズアー」案ノ趣旨ニヨリ縮減不可能ナル陸軍人員數及縮減可能ナル陸軍人員ニ適用セラルヘキ縮減割合決定方ニ關シ「人員委員會」ニ對シ一定期間内ニ報告ノ提出ヲ命シ「人員委員會」カ該期間内ニ報告提出ヲ不可能トスル場合ニハ「幹部會」自ラ其ノ決定ヲナス

(ロ) 歐洲大陸陸軍編成様式實現期間ノ問題ハ「幹部會」自ラ之カ決定ヲナシ「幹部會」必要ト認ムルトキハ豫メ「人

員委員會」ニ對シ之カ研究ヲ命スルコトヲ得

(二) 陸軍器材

幹部會ハ速ニ左ノ事項ヲ討議ス

(イ) 戰車ノ最大自重

(ロ) 移動砲ノ最大口徑

(ハ) 戰車ノ量的制限決定セラルル場合ニ於テハ該制限ヲ超ユル戰車ノ處分方法

(三) 空軍器材

(イ) 主タル空軍國代表者ヨリ成ル委員會ヲ設ケ民用航空ノ實效的ナル國際監督ト關聯シ軍用航空及空中爆撃全廢ノ可能性ヲ研究セシム

(ロ) 「幹部會」ハ自ラ左ノ事項ヲ速カニ討議ス

軍用航空機ノ最大自重

該最大自重超過軍用航空機ノ處分方法

各國ニ割當テラルヘキ許容機ノ數

(四) 海軍器材

「幹部會」ハ夫々左ノ單艦最大噸數及備砲最大口徑ヲ定ム

(イ) 主力艦

(ロ) 航空母艦(航空母艦ヲ保有又ハ代換シ得ル場合)

(ハ) 巡洋艦

(ニ) 驅逐艦

(ホ) 潜水艦(潜水艦カ保存又ハ代換シ得ル場合)

第九章 英 條 約 案

第一節 英案ノ提出

二月二日一般委員會再開佛案ヲ始メトシテ英ノ議事進行手續案ニ基ク幹部會ノ議事「プログラム」、歐洲大陸陸軍ノ編成様式統一、人員、武力不行使、空軍等ノ諸問題ヲ審議シタルモ獨佛ノ對峙ニ依リ議事遅々トシテ進マナリシカ三月二入リテハ獨伊對佛及其ノ與國ノ對立關係ハ益々險惡トナリ此ノ儘審議ヲ續行センカ兩者ノ對立關係ハ愈々顯著トナルヘキハ明カニシテ會議ハ全ク危機ニ直面スルノ狀況トナレリ此ノ情勢ニ於テ英國政府ハ三月六日閣議ヲ開キ目下危機ニ直面セル會議ヲ決裂ヨリ救ハンカ爲首相及外相ヲ壽府ニ派遣スルコトニ決定セリ

英首相及外相ハ三月十日英國發巴里ニ立寄り佛首相「ダラディエ」ト會見シ三月十一日來壽シ直ニ獨伊其ノ他ノ全權ト會見シ意見ノ交換ニ努メシカ兩相ハ會議ノ空氣カ豫想以上ニ惡シキニ失望シ佛ト伊獨トノ關係現狀ノ如クンハ妥協ノ望ミハ極メテ渺キモサリトテ獨ヲ復歸セシメタル今日一般のニ會議ヲ延期スルコトモ出來ス伊太利ノ如キハ「イースター」マテ會議ヲ休會スヘシト提議シ獨モ之ニ強ヒテ反對ヲセサリシカ小國ハ概ネ休會ニ反對シ居リタル關係モアリ結局會議ヲ續行スルノ外ナキコトナリ茲ニ於テ「マ」首相ハ其ノ用意セル條約案ヲ會議ニ提出スルコトニ決意セルモノノ如シ

三月十六日ノ一般委員會ニ於テ英首相ハ左記要旨ノ演說ヲ行ヒ英案ヲ提出セリ

軍縮會議ノ現在ノ方法ハ既ニソノ有效ナル限界ニ達シ今ヤ勇氣アル果敢ナル手段必要トナレリ獨逸等ハ自由ト正義ヲ要求シ居ルモ右諸國ハ信賴ト相互理解樹立ニ寄與スルヲ要ス

昨年末ノ五ヶ國會議ハ獨逸ニ對シ軍備平等權附與ヲ承認シタルト同時ニ各國ノ手ニ置カレタル武力カ國際間ノ紛爭解決ノ手段ニ用ヒラレサルコトヲ規定セリ而シテ平等ハ段階ヲ經テ漸進のニ到達セラルヘキナリ

英國案ハ過渡的案トシテ

- (一) 實施期間ヲ五ヶ年トス
 - (二) 軍縮ヲ行フモ再軍備ヲ行ハサルコトヲ明カニシ世界ニ善意ヲ示ス
 - (三) 國際監督ヲ行ヒ一切ノ參加國ニ對シ保障ヲ與フ
 - (四) 常設軍縮委員會類似ノ委員會ヲ設ケ今後ノ軍縮未解決ノ難點解決ニ努メシム
 - (五) 各國間信賴ノ念増進ノ機會ヲ供ス此ノ點ハ最近三週間ノ國際狀況ニ照シテ緊要ナリ
- ノ五ツノ特性ヲ有ス無數ノ婦人兒童ノ福祉ハ今ヤ一ニ諸君ノ常識ニ倚レリ徒ラニ自國ノ面目等ニ囚ハレ現實ヲ忘ル勿レ諸君ハ「マネキン」ニ非ス男子ナリ

最後ニ此ノ際合意ニ達セスンハ會議ハ失敗ニ終リ其ノ後ニ來ルモノハ急速ナル破滅ナリ軍縮ハ目的ニアラス安全保障平和ノ爲ニスル一方法タルニ過キス然レトモ本會議ニシテ失敗センカソハ不安定ヲ醸成シ戰爭熱ヲ激發スルニ至ルヘク吾人ハ武力ニヨル紛爭解決及戰爭ニハアキアキセリ

第二節 英案ノ要旨

英條約案ハ第一編安全保障、第二編軍縮―人員及器材、第三編報道交換、第四編化學戰、第五編一般規定ノ五編九十六條ヨリ成ルカ英代表部ノ發表セル解說要旨左ノ如シ

一、安 全 保 障

巴里規約ノ違反又ハ違反ノ脅威アル場合ニハ締約國五國(大國一ヲ含ムヲ要ス)ノ請求ニ依リ會議ヲ開催ス右會議ニ於ケル結論ハ日、英、米、佛、伊、獨、蘇ノ七大國及他ノ會議參加國ノ過半数ノ賛成ヲ要ス巴里規約違反脅威ノ場合ニハ之カ對策ヲ協定シ違反實現ノ場合ニハ責任國ヲ決定ス

本條項ハ聯盟規約ノ條項殊ニ聯盟總會及理事會ノ權限ヲ制限スヘキモノニ非ス

二、軍 縮

(一) 人 員

歐洲大陸ノ陸軍ノ編成様式ハ統一セラレ且ツ八ヶ月兵役トスルモ兵役年限ニ付テハ若干國ニ於ケル特殊狀況ニ應スル爲
伸縮性ヲ與フルヲ要スヘク右ノ場合ニ付テハ會議ハ十二ヶ月迄延長スルコトヲ得
歐洲大陸ニ於ケル陸軍兵力ニ關シ協定成立スルトキハ他ノ兵力ヲ決定スルコト容易ナルヘシ

超過スルヲ得サル陸軍兵力ノ日割平均人員表

(註) 本表ハ歐洲大陸諸國ニ關スル數字ノミヲ掲ケ居ルモ勿論他ノ一切ノ締約國ニ關スル數字ノ附加ニ依リ補足セラルヲ要ス)

當 事 國	本 國 人 員	海 外 駐 屯 軍 ヲ 含 ム 總 人 員
獨 逸	二十萬	二十萬
白 耳 義	六萬	七萬五千
勃 牙 利	六萬	六萬
西 班 牙	十二萬	十七萬
佛 蘭 西	二十萬	四十萬
希 臘	六萬	六萬
洪 牙 利	六萬	六萬
伊 太 利	二十萬	二十五萬
和 蘭	二萬五千	七萬五千
波 蘭	二十萬	二十萬
葡 萄 牙	五萬	六萬

羅 馬 尼	十五萬	十五萬
智 惠 古	十萬	十萬
蘇 聯 邦	五十萬	五十萬
「ユーゴスラヴィア」	十萬	十萬

他ノ歐洲大陸ニ付テハ本國海外領域ノ區別ナク五萬トス

三、器 材

移動砲ノ最大口徑ハ百五耗トス百五十五耗以下ノ現存移動砲ハ之ヲ引續キ保有シ得ルモ新造砲ハ百五耗以下タルヘシ
海岸砲最大口徑ハ艦載砲ノ制限ニ準シ四百六耗トス

戰車ノ最大重量ハ十六噸トス

禁止器材ハ條約實施後一年內ニ三分ノ一ヲ三年內ニ三分ノ二ヲ破棄ス

四、海 軍

(一) 海軍軍縮ハ華府及倫敦兩條約ニ依リ實現セラレタルカ英案ハ佛伊ヲシテ倫敦條約ニ參加セシメ且ツ他ノ海軍國ヲシテ
一九三二年ノ軍事年鑑ニ記載セラレアルカ如キ程度ニ制限セムコトヲ目的トス

(二) 即チ英案ハ一九三五年ノ會議カ將來ニ對シ一切ノ國ノ軍備ヲ満足ニ解決スル迄華府及倫敦兩條約ニ依ル狀態ヲ維持ス
ルコトヲ目的トス

(三) 戰艦ノ建造休止ハ伊國ニ對スル一隻ヲ除ク外各國ニ適用セラル倫敦條約ノ規定留保ノ下ニ八吋ヲ超ユル巡洋艦ハ建造
ヲ禁止ス他ノ艦種ニ付テハ代換ニ限ラルヘク且ツ海軍條約所定ノ質的制限ニ從フヘシ

(四) 軍縮常設委員會ハ一九三五年ノ海軍會議ニ於テ審議ノ爲一般軍縮會議ニ提出セラレタル海軍新質的制限ヲ研究スヘ
シ

五、空 軍

若干僻遠地方ニ於ケル警察用ヲ除キ空爆ヲ禁ス

五年後ニ於テ超過スヘカラサル戰用機ノ數ヲ掲ケ日、英、佛、伊、米、露ノ六大空軍國ノ機數ヲ五百トセリ

軍隊輸送機及飛行艇ヲ除キ軍用機ノ最大自重ヲ三噸トス

飛行船ノ建造及獲得ヲ禁ス

六、其ノ他ノ規定

本條約ノ實施期間ハ海軍條項（一九三六年十二月三十一日迄）及化學戰條項（無期限）ヲ除キ五ヶ年トシ期間満了前ニ更

ニ新條約締結ノ爲會議ヲ開催スヘシ

本條約及今後締結セラルヘキ條約ハ對獨對奧對勃對洪各平和條約ノ軍縮條項ニ代ルヘキモノナリ

第十章 英首相及外相ノ訪伊（四國協約ノ商議）

三月十六日新提案ヲ爲シ沈滞セル空氣ニ一脈ノ活氣ヲ與ヘタル「マクドナルド」ハ壽府ヨリ十七日羅馬ニ至リ同地ニ二十日迄滞在シ「ムツソリニー」ト會見シ一般現狀ニ關シ意見交換ヲ行ヒタル後歐洲及世界ノ恒久平和ヲ確立スル爲西歐四國ノ協力實現ヲ目的トスル「ムツソリニー」作成ノ重要ナル政治問題ニ關スル試案ヲ檢討シ歸途巴里ニ立寄り佛首相ト意見ヲ交換シ二十二日倫敦ニ歸レリ

伊首相ノ提案ナルモノハ其ノ内容公表セラレサルモ英、佛、獨、伊四國ノ協調ニ依リ險惡ナル事態トナラントスル歐洲ノ政局特ニ諸種ノ「グループ」ノ成立ヲ見ントスル形勢アルヘキヲ以テ之等ニ對抗シテ平和ヲ維持セントスルモノニシテ七ヶ條ヨリ成リ其ノ要旨ハ左ノ如キモノト傳ヘラル

第一條 四國ハ不戰條約及武力不行使取極ノ精神ニ依リ歐洲ニ於ケル平和保持ノタメ協力スヘキコト

第二條 聯盟規約ノ規定ニ準據シテ講和條約ヲ改訂スルコト

第三條 軍縮會議失敗ノ場合ニハ四國間ニ協定セラルヘキ所ニ從ヒ或ル程度迄且段階的ニ獨逸ニ對シ軍備平等ヲ認ムルコト

第四條 前條ハ之ヲ奧、洪、勃ニモ適用スルコト

第五條 四國ハ歐洲及世界ノ經濟問題ノ解決ニ關シ努力スルコト

第六條 批准ニ關シ規定スルモノニシテ本協定有効期間ヲ十ヶ年トナシ居レリ

第七條 本協定ノ聯盟事務局寄託ヲ規定セルモノナリ

右四國協定ニ關シテハ内容公表セラレサル關係上各種憶測ヲ生シ各國新聞紙上ヲ賑ハカシ大體ニ於テ佛及其ノ與國ハ反對的態度ヲ示シ居リ此等ハ軍縮會議ニ於ケル英案一般討議ノ空氣ニモ反映スルノ狀勢トナレリ

第十一章 英案審議ノ停頓

英案ノ一般討議ハ三月二十四日ヨリ三月二十七日迄行ハレ日、英、米、佛、獨、伊、露ノ外三十ヶ國ノ代表夫々意見ヲ述ヘタルカ三月二十七日一般委員會ハ「ベネツシユ」ノ提議ニ依リ（一）英案ヲ討議ノ基礎トスルコト（二）「パーク」休暇後英案ノ逐條審議ヲ行フコトヲ決定シ四月二十五日ヨリ英案第一編安全保障ノ審議ニ入りシカ米ノ提議ニ依リ之ヲ中止シ第二編人員問題ノ審議ヲ始メシモ佛獨各々讓ラス難問題ハ其ノ儘トシ單ニ形式上ノ第一讀會ヲ終了シタル後又器材問題ニ移ルヘキヤ否ヤニ付獨佛ノ意見又岐レ議事進行ノ手續ニ關シ玆ニ一頓挫ヲ來シ一般委員會ノ開催ヲ中止シ私的交渉ヲ行フコトトナレリ蓋シ獨カ先ツ器材問題ニ於テ佛器材ノ破壊又ハ其ノ平等權要求ノ貫徹ヲ計ラントスルニ對シ佛ハ之ヲ極力阻止スルト共ニ獨ノ軍隊の組織團體ヲ制限セントセリ

此間經濟會議ノ準備的交渉トシテ渡米セル英首相及佛ノ「エリオ」ト米大統領トノ會談ニ依リ英米間ニ於テハ米國ハ英提

案ニ全幅ノ支持ヲ爲スヘキ了解完全ニ成立セリト傳ヘラレ又米佛間ニハ安全保障ニ對シ或種ノ了解成立シ相當佛國ヲ満足セシメタリト傳ヘラレ軍縮會議情勢ノ好轉ヲ豫想セララルニ至リ會議ニ於テモ米代表ノ態度ハ五月初旬ニ至リ著シク英案支持ノ態度顯著トナリ來レリ

一方獨逸ノ「ヒットラー」獨裁政治ハ益々其ノ鋒鋒ヲ現ハシ英佛ヲ始メ群小與國ノ反感ヲ鋭敏ナラシメツツアリ四月初旬獨逸國內ノ「ユダヤ」人排斥問題ハ各國ニ大ナル衝動ヲ與ヘ英國等ノ之ニ對スル反感ハ相當大ナルモノアリ

以上ノ如キ空氣ニ於テ各關係國代表ノ私的交渉行ハレタル次第ナルカ獨代表ハ孤軍固ク自説ヲ持シテ譲ラス遂ニ五月十二日交渉不調ノ儘幹部會ヲ開クニ至レリ

右幹部會ニ於テ議長ハ折衷案トシテ十五日一般委員會ヲ開催シ器材問題及條約實施期間ニ關スル英案第九十四條ニ付何等ノ修正案ヲ出スコトナク極メテ廣汎ナル意義ニ於ケル豫備的討議ヲ行フコトヲ提議シ異議ナク決定セリ

然ルニ獨國政府ハ軍縮問題ニ關シ十七日「ライヒスタツハ」開催ノ旨ヲ公表シ獨首席全權「ナドルニー」ニ對シ突然歸國命令ヲ發セリ

茲ニ於テ各國新聞ハ「ヒットラー」ノ昨今ノ態度ヨリシテ必スヤ強硬ナル宣言ヲ豫想シ獨ノ再軍備建設ヲ見ルナラント信シ大々的ニ軍縮會議ノ危機ヲ論シ一般ノ空氣ハ頗ル緊張スルニ至レリ

第十二章 米國大統領「ルーズヴェルト」ノ親電

米大統領「ルーズヴェルト」ハ五月十六日世界平和確保ニ關スル聲明ヲ軍縮會議及經濟會議參加各國元首ニ打電シ同意ヲ求メタリ右聲明ハ益々險惡トナレル獨ノ態度ニ對應スル爲世界ノ輿論ヲ動員スル目的ニ出テタルモノト傳ヘラル右聲明ハ十九日米代表部ヨリ「ヘンダーソン」議長ニ通告セラレタルカ軍縮ニ關シテハ

(一) 本條約ハ一切ノ國ニ於ケル軍備ノ擴張ヲ防止スヘキコト

(二) 軍縮ノ第一階梯實現ノ爲英案ヲ受諾スヘキコトヲ要點トシ居ル處最近ノ會議カ同案第一編及第二編ニ付達セル難關ニ對シテハ

(イ) 攻撃的兵器ノ全廢

(ロ) 右全廢實現ノ階梯、方法及時期ノ指示

(ハ) 一切ノ國ニ依リテ締結セララルヘキ不可侵條約

(ニ) 右不可侵條約ノ結果トシテ且軍縮條約ノ忠實ナル實施ヲ條件トシ一切ノ國民ニ依リナサルヘキ兵力ノ國境外不派遣ノ約定

ノ妥協案ヲ提出セリ

親電ノ要旨左ノ如シ

我國民ノ深甚ナル冀望ハ予ヲ驅リテ當國政府ノ首長トシテ

陛下竝ニ陛下ヲ通シテ貴國民ニ陳述セシムルモノナル處コノ冀望ハ軍縮ノ實際的措置ニ依リ平和力保障セラレ且ツ吾人全部力經濟的混亂ニ對スル吾人共同ノ奮闘ヲ勝利ニ導カムトスルニアリ此等ノ目的ノ爲メ諸國民ハ二大世界會議ヲ招集セリ。全世界ノ男女及ヒ兒童ノ幸福繁榮及生命ハ彼等ノ政府カ近キ將來ニ於テ爲スヘキ決定ニ繫屬シ社會狀態ノ改善、個人權利ノ保持及社會正義ノ促進モ亦此等決定ニ依存ス。世界經濟會議ハ近ク開會セラルヘク而シテ速ニ決定ニ到達セサルヘカラス世界ハ討議ノ永引クヲ待ツヲ得ス同會議ハ通貨ノ安定ニ依リ世界貿易ノ流動ヲ自由ナラシムル事ニ依リ竝ニ價格ノ水準ヲ高ムル國際的措置ニ依リ以テ現在ノ混亂ニ代フルニ秩序確立ヲ以テセサルヘカラス。同會議ハ要スルニ賢明且ツ周到ナル國際的措置ニ依リ經濟上ノ恢復ニ對スル個々ノ國內計畫ヲ補足セサルヘカラス。

軍縮會議ハ一年以上ニ涉リ努力セルモ未タ満足ナル決定ニ達スルヲ得ス混亂セル諸目的ハ尙險惡ニ衝突ス吾人ノ義務ハ最大多數ノ最大幸福ヲ基礎トスル協調的行動ニ依リ實際的結果ヲ齎スノ方向ニ存スコノ偉大ナル義務ノ命令ノ要求ニ對シテ

ハ些細ナル障害ハ一掃セラレ些細ナル目的ハ忘却セラレサルヘカラス私利の勝利ハ常ニ最終ノ敗北タルヘキ運命ヲ有ス世界ノ各部分ニ於テ現代ニ對スル永續の平和ノ促進ハ吾人ノ最善ノ努力ヲ爲スヘキ價值アル唯一ノ目標ナリ。吾人カ世界大戰ノ教訓及悲劇ニ拘ラス現在世界人民ニ對シ從來ヨリモ大ナル負擔タル軍備ヲ有スルノ理由如何ヲ尋スレハ其ノ理由ハ二アルコト明白ナリ。即チ第一ハ諸政府側ニ於テ友國ノ犧牲ニ於テ自國領土ヲ擴張セムトスル明示の又ハ隱蔽の願望ナリ予ハ諸政府又ハ諸人民ノ少數ノミカスカル企圖ヲ抱懷スルヲ信ス。第二ハ侵入セラルヘシトノ諸國民ノ恐怖ナリ予ハ諸國民中ノ壓倒の大多數カ過大ナル軍備ヲ保持セサルヲ得スト感スル所以ハ彼等ニ對スル何等カノ侵略行爲ヲ怖ルルニ在リテ自ラ侵略者タラムコトヲ求ムルニ在ラスト信スルモノナリ。

右ノ恐怖ニハ正當ナル理由アリ近代の攻撃武器ハ近代の防禦武器ニ比シ遙カニ強力ニシテ國境、要塞、塹壕、鐵條網、沿岸防禦即チ一言ニシテ言ハハ固定要塞ハ軍用飛行機、移動重砲、戰車ト稱セラルル陸上戰艦及毒瓦斯ノ攻撃ニ對シ絕對堅固ト云フヲ得ス。若シ一切ノ國民カ效果アル攻撃ヲ可能ナラシムル武器ノ保有及使用ヲ排除スルコトニ全然一致セハ防禦ハ自動的ニ絕對堅固トナリ國境及各國民ノ獨立ハ安固トナルヘシ。

軍縮會議ノ終局ノ目的ハ一切ノ攻撃の武器ヲ完全ニ排除スルニ在リテ其ノ直接ノ目的ハコレ等武器ノ或ルモノノ實質的削減及其ノ他多數ノモノノ排除ニ在リ。我カ政府ハ「ゼネヴァ」ニ於テ目下討議中ノ侵攻の武器ノ即時削減ノタメノ計畫ハ單ニ吾人ノ終局目的ニ到達スル第一歩タルニ過キサルモノト信ス。吾人ハ提議セラレタル即時の手段ハ充分ナルモノトハ信セサルモ兎ニ角我カ政府ハ現在提議セラレタル方法ヲ歡迎シ軍縮ニ關スル繼續的手段ノ達成ニ其ノ力ヲ致サントス。玆ニ最モ明白ニ述フルニ於テハ現在ノ商議ニ於テ協定セラルヘキ三箇ノ段階アリ。

第一ハ「マクトナルド」案ニ於テ概説セラレタル所ノ前記目的ニ到達スル第一ノ明確ナル段階ヲ直チニ執ルニアリ

第二ハ次ノ段階ヲ執ルヘキ時期及ヒ手續ヲ協定スルニアリ

第三ハ第一及之ニ連續スル段階ヲ執ル間何レノ國モ其ノ現存軍備ヲ條約上ノ義務ノ制限以上ニ増加スヘカラサルコトヲ協

定スルニアリ。

然レトモ世界ノ平和ハ軍縮ノ全期間中確保セラレサルヘカラサルヲ以テ予ハコレ等第三提案ノ誠實ナル履行ト相俟チ相並ンテ且ツ現存條約上ノ權利ニ從フコトヲ條件トシ第四ノ段階ヲ提議ス世界ノ一切ノ國ハ嚴肅且ツ明確ナル不侵略協約ヲ締結シ其ノ軍備ノ制限且ツ縮小ヲ約諾セル義務ヲ嚴肅ニ再確認シ且ツ是等ノ義務カ一切ノ締約國ニ依リ誠實ニ履行セラルル事ヲ條件トシテ其ノ性質ノ何タルヲ問ハス武裝兵力ヲ其ノ國境外ニ出動セシメサルコトヲ個別的ニ協約スヘシ。

常識ハ若シ何レカノ強國カ「ゼネヴァ」及倫敦ニ於テ政治上及經濟上ノ平和ノタメニスル是等協調的努力ニ純真ナル誠意ヲ以テ參加スルヲ拒ムニ於テハ進歩ハ阻害セラレ且ツ終局のニ閉止セラルヘキコトヲ明示ス斯クノ如キ場合ニ於テハ平和ノ兩形式ヲ希求セル文明世界ハ失敗ノ責任ノ存スル所ヲ明知スヘシ。予ハ何レノ國モ斯カル責任ヲ執ラサラムコト並ニコレ等大會議ニ參加スル一切ノ國カ其ノ明言セル政策ヲ實行ニ移サムコトヲ勸奨ス是レ政治上及經濟上ノ平和ニ到達スルノ途ナリ。予ハ陛下ノ政府カ是等ノ冀望ノ履行ニ參加セラレムコトヲ信スルモノナリ。

第十二章 獨宰相「ヒットラー」ノ聲明

獨逸政府ハ五月十二日閣議ヲ開キ協議ノ結果軍縮問題ノ爲國會ヲ召集スルニ決シタリ

歐洲ノ不安及軍縮ノ行詰リニ對シ重要ナル地位ニアル「ヒットラー」獨裁政府カ國會ヲ召集シテ何ヲ聲明スルヤハ注目ノ的トナレルカ「ヒットラー」ハ比較的穩和ナル外交演説ヲ爲シタリ

其ノ要旨左ノ如シ

現在ノ危機ノ原因ハ大戰後感情ノ爲理性及正義ノ觀念破壊セラレタルコト即チ平和條約ノ缺陷ニアリ平和條約ハ各國民ノ將來ニ對シ重要ナル問題ヲ政治的ニモ經濟的ニモ解決セシムコトヲ試ミサリキ將來ノ紛爭ヲ避クル爲ニハ政治的國境ヲ能フ限リ民族の國境ト合致セシムルコト必要ナリスノ如キ解決コソ眞ノ平和ノ基礎タルニ拘ハラズ反對ニ感情、怨恨又

ハ無知ニ依リ新紛争ノ種子ヲ包含スル解決法ヲ決定セリ

眞ニ世界ノ平和ヲ欲スルニ於テハ制裁、賠償等ノ危險思想ニ依ルコトナク生活ノ實相ヲ考慮スルノ要アリタルモ一國民ヲ經濟的ニ亡スコトハ他國ニ利益ナリト考ヘラレタリ賠償ノ問題ハ如何ニ感情カ世界ノ繁榮ニ害アリヤヲ示ス歴史的事例ナリ各國ハ獨ニ金錢支拂ヲ要求シタル爲獨ハ輸出ヲ餘儀ナクセラレ其結果ハ各國民ノ經濟生活ヲ擾亂シ債權國ノ輸出ハ激減スルニ至レリ獨ハ其不公正及悲慘ナル結果ニモ拘ラス課セラレタル義務ヲ履行セリ其ノ證據ハ今日ノ世界の經濟危機ナリ

國際正義ノ觀念モ平和條約ニ依リ破ラレタリ蓋シ平和條約所定ノ處置ヲ理由附ケル爲獨ヲ罪人ト爲ス必要アリタル爲ナルモ戰爭末期ニ於ケル各國ノ關係ヲ恒久的ナラシムル恐ルヘキ結果ヲ招來セリ

戰勝國及戰敗國ノ感念ハ新シキ國際正義ノ基礎トナリ大國ヲ二等國ト爲スノ聲明ハ聯盟創立ノ際ニ爲サレタリ然レ共新ナル歐洲戰爭ニハ現事態ヲ改善スル何モノヲモ期待シ得サルヘク成功スルモ更ニ新シキ紛争若シクハ戰爭ノ種子ヲ詩クニ過キサルヘシ新戰爭ハ社會秩序ノ破壊、限り無キ困亂過激化ヲ齎スヘキヲ以テ獨逸國民政府ハ全力ヲ舉ケテ之ニ反對スヘシ

國民政府ノ目的ハ過激化ノ阻止、社會問題中最モ困難ナル失業問題ノ解決及他國ト條約ヲ締結シ得ル權威アル政策樹立ニアリ他國民ノ正當ナル要求ハ吾人モ之ヲ承認スヘキコトヲ余ハ茲ニ國民社會黨員トシテ宣言ス

青年獨逸ハ其ノ苦シメル所ヲ他國民ニ苦シマシムルコトヲ欲セサルモノナリ我等ノ我國民ニ對スル愛ハ吾人ヲシテ他國民ノ權利ヲ尊重セシム

他國民ヲ獨逸化セント欲セサルト共ニ其ノ反對ノ場合ニハ異議ヲ有ス

平和條約ハ波蘭ノ理解シ得ヘキ要求ト獨ノ當然ノ權利トヲ調整シタル解決ヲ爲スヘカリシナリ

獨政府ハ條約ヲ破壊スルモノニ非サルモ條約ノ與フル權利ハ戰勝國戰敗國一樣ニ之ヲ享有スルコトヲ要求ス條約改訂要

求ハ條約自體ノ認ムル權利ナリ獨逸ノ欲スル所ハ唯過去ノ經驗及公平ノ結果ヲ承認セシコトナリ

經驗ハ明ナリ世界ハ劃然ト戰勝戰敗ニ分レ吾人ハ軍縮ヲ課セラレ他國ハ過度ノ軍備ヲ有ス獨ノ權利平等要求ハ權利及道德ニ基クモノニシテ平和條約自體ノ規定及獨軍縮實行ノ事實ノ兩方ヨリ來ルモノナリ

他國民ノ差別的待遇ハ歴史ニ徴シ維持セララルモノニ非ス六千萬國民ノ一時的壓迫ハ長キ歴史ノ前ニハ何等ノ價值ナシ獨國民ハ佛及波國民ト同様依然トシテ存續スヘシ獨ハ軍縮ヲ實行シタルヲ以テ其ノ平等要求ハ道德的權利ナリ獨ハ再軍備ヲ爲セリトノ說又ハ人員ニ關スル平和條約軍事條項ヲ履行セストノ說ハ何レモ虛構ナリ

突撃隊ハ政府ヨリ何等ノ補助又軍隊ヨリ何等ノ援助ヲ受ケ居ラス其ノ目的ハ共產「テロル」ニ對スル黨防衛ニアリ獨ノ如ク數百萬ノ共產黨員ヲ有セサル他國ハ共產黨ノ危險ヲ充分理解シ能ハサルヘシ最近共產黨ノ爲我突撃隊ノ蒙レル損害ハ死者三百五十、負傷者四萬ニ達ス

今日壽府ニ於テ突撃隊ヲ軍事團體ト同一視スルニ於テハ余ハ問ヒ度キコトアリ獨ハ今日迄平和條約、聯盟加入、他國ニ於ケル既教育豫備兵ヲ計算セサルカ如キハ權利及正義ノ觀念ヲ没却スルモノナリ

獨逸ハ軍縮ヲ實行セリ今ヤ軍隊ハ十萬ニ過キス警察ハ國際規則ニ拘束セラル補助警察ハ革命ノ際創設セラレタル政治的性質ヲ有スルモノニシテ漸次減員セラレ今年末迄ニハ廢止セラルヘシ獨逸ハ道德的ニモ他國ノ條約義務履行ヲ要求シ得ヘシ

佛ハ獨ノ權利平等ニハ安全保障ヲ必要トスト主張スルニ於テハ余ハ問ヒ度キコトアリ獨ハ今日迄平和條約、聯盟加入、「ロカルノ」條約、「ケログ」規約、仲裁裁判條約、武力不行使宣言等ヨリ生スル一切ノ義務ヲ受諾シ來レル處獨ハ更ニ如何ナル保障ヲ與ヘ又佛ハ獨ニ如何ナル保障ヲ與ヘントスルヤ

又聯盟ノ調査ニ依レハ佛ハ三千四十六、白ハ三百五十、波ハ七百、「チエツコ」ハ六百七十ノ飛行機ヲ有スルノミナラス尙多數ノ豫備機ノ外數千ノ戰車、重砲、化學兵器ヲ所持ス

斯ル事態ニモ拘ラス獨ハ尙自己ノ安全ヲ要求スルノ權利ヲ有セサルヤ然レトモ獨政府ハ他國ニシテ等シク受諾スル用意アル限り安全保障ニ關スル新義務ヲ受諾スルノ用意アリ獨逸ハ他國カ爲スニ於テハ一切ノ軍事團體ヲ解散シ且殘留兵器ヲ破棄スルノ用意アリ

然レトモ他國カ平和條約所定ノ軍縮義務ヲ履行セサルニ於テハ獨ハ權利平等ノ要求ヲ維持セサルヲ得ス獨政府ハ英案ヲ討議ノ基礎トスヘキモ少クトモ質的權利平等ヲ獨ニ認メサル限り軍事團體解散ヲ獨ニ要求シ得サルヘシ獨ハ其ノ軍隊組織變更カ他國ノ軍縮實行ノ程度ニ應シ漸次行ハルルコトヲ要求ス

注意スヘキハ右軍隊組織ハ獨ノ希望シタルモノニ非スシテ他國ノ獨ニ課シタルモノナルコトナリ軍縮實現ノ爲五年ノ過渡期間ヲ受諾ス但シ右期間後ハ獨ハ實際上他國ト同等ノ地位ニアルヲ要ス又一切ノ攻撃的兵器ヲ廢止スルノ用意アリ

獨ハ唯其ノ獨立及國境防衛ヲ欲スルノミナリ

一九三二年佛陸相ハ有色殖民軍ノ大部分カ佛國內ニ於テ使用セラレ得ヘキコトヲ聲明セルカ是等ノ軍隊ハ佛國兵員計算ノ際考慮セラルルヲ要ス

要スルニ獨ノ要求ハ其ノ再軍備ニ非スシテ他國ノ軍縮ナリ

歐洲大國間ニ信頼及協力ノ關係ヲ樹立セムトスル伊國首相ノ重要ナル案ニ敬意ヲ表シ又米大統領「ルーズヴェルト」氏ノ提案ニ感謝ノ意ヲ表スヘク國際危機解決ノ爲右方法ニ依ルコトニ同意ス

獨政府ハ軍縮問題解決セラレサル限り經濟回復ハ不可能ナリト思考ス

佛、波ハ獨ノ侵略ヲ恐レ居ルカ如キモ侵略ヲ被ル虞アル唯一ノ國ハ獨逸ナリ

獨ハ一切ノ攻撃的兵器ヲ廢止スルノ用意アルノミナラス其ノ欲スル所ハ侵略ニ非スシテ防衛ナルヲ以テ不侵略協定ニ參加スルノ用意アリ

然レトモ獨政府及其ノ國民ハ獨リ差別的待遇ヲ永續セシムルカ如キ署名ハ斷然拒否スヘシ

然レトモ多數決ニ依リ獨ニ條約ノ明文ニ反スル法ヲ課セントスルカ如キハ暴力行爲ニ等シク獨ノ會議脫退ヲ欲スルモノニ外ナラサルヘシ斯クノ如キ場合ニハ獨ハ他國トノ協力及聯盟殘留ヲ困難トスヘシ

人類過誤ノ時代ヲ去リ權利平等ノ基礎ノ上ニ各國ノ協調ヲ齎スヘキ途ヲ發見セムトスル獨逸ノ意志ヲ他ノ諸國カ充分了解セムコトヲ望ム

右「ヒットラー」ノ聲明ニ基キ獨代表「ナドルニ」ハ五月十九日ノ一般委員會ニ於テ

獨宰相ハ過日「ライヒスタツハ」全會一致ノ支持ヲ得タル演說ニ依リ獨カ協定及永續の平和確立ニ努力ヲ惜シマサルコトヲ明カニセルカ右演說及米ノ「メツセージ」ハ何レモ安全ノ必要條件タル一般軍縮ノ必要ヲ強調シ本會議ノ具體的結果ニ達スルカ爲努力ヲ爲シ以テ經濟會議ノ成功ニ資スヘキ旨ヲ說キタリ獨逸國民ハ本次會議カ現在強大ナル軍備ヲ擁スル諸國ノ軍縮ニ依リ實現セラルヘキ安全保障及獨ノ平等權ノ二者ヲ實現セラルルコトヲ切望スル處英案ハ之カ解決ノ基礎タリ得ルモノナルカ故ニ獨政府ハ英案ヲ從來ノ如ク單ニ討議ノ基礎トナスコトナク新條約ノ基礎トナスヘク今後獨ノ提出スヘキ修正案ハ右協調ノ精神ニ基キ起草セラルルモノナルコトヲ一言スト

溫和協調のナル意見ヲ述ヘタリ

第十四章 安全保障問題ニ關スル米代表ノ聲明

米大統領ノ聲明ニ關聯シ安全保障ニ對スル米國ノ態度ハ頗ル注目セラレ居リタルカ「ノーマン、デヴィス」ハ五月二十二日ノ一般委員會ニ於テ「若シ實質的軍縮カ一般の條約ニ依リ實現スルニ於テハ吾人ハ他ノ方法ニ於テモ平和組織ニ寄與スルノ用意アリ殊ニ平和ノ脅威セラレタル場合紛爭ヲ避ケンカ爲ニ他國ト喜ンテ協議スヘキノミナラス會議ノ諸國カ一國カ國際的義務ニ違反シ平和ヲ攪亂シタルノ罪アリト決定シ且違反者ニ對シ措置ヲ執ル場合ニハ若シ吾人カ責任アリ且罪アル

國ニ關スル其ノ判定ニ同意スルニ於テハ吾人ハ各國カ平和恢復ノ爲ニ爲スヘキ共同の努力ヲ破ルカ如キ如何ナル行動ヲモ爲ササルヘシ條約履行ノ爲適當ナル監督制度必要ニシテ實效アル自動的繼續の監督ニ同情スルモノナリ

世界各國ハ不戰條約ヲ締結シ居リ若シ吾人カ此ノ義務ニ忠實ナラントセハ戰場ニ於テ紛爭ヲ解決スル代リニ會議ニ於テ之ヲ處理セサルヘカラス米大統領カ各國民カ現存セル條約上ノ權利ヲ除キ兵力ヲ國境ヲ超エテ派遣セシメサルノ約束ヲ爲スコトヲ提議シタルハ右ノ如キ考慮ヲ以テ爲サレタルモノナリ

吾人ハ最も簡單ニシテ最も正確ナル侵略者ノ定義ハ其ノ兵力カ條約ニ違反シテ外國ニ在ルコトナル結論ヲ得タリト述ヘ同二十四日ノ一般委員會ニ於テハ米政府ハ協議及中立權ニ付テハ一方の宣言ニ依リ其ノ政策ヲ行ハントスルモノニシテ英案採擇セラルルニ於テハ米國ノ軍縮條約批准寄託ニ際シテ左記趣旨ノ一方の宣言ヲ爲スヘシト答ヘタリ

「不戰條約ノ違反及違反ノ脅威ハ一切ノ同條約署名國ノ關心事項ナルヲ認メ米國政府ハ右場合ニ軍縮條約第一編第、、條ニ基ク協議カ行ハルルニ於テハ平和維持ニ貢獻ノ爲之ニ參加スルノ用意アルヲ聲明ス右協議ノ結果侵略國ノ決定ヲ見タル場合米國政府ハ自己獨自ノ判斷ニ依リ右決定ニ同意スルニ於テハ侵略國ニ對シテ課セラルヘキ共同動作ヲ阻害スルカ如キ何等ノ行動ヲ爲サス且右ノ如キ行動ニ出ツル自國市民ヲ保護セサルコトヲ約ス」

第十五章 四國協約ノ署名

「ムツソリニー」ノ四國協約案ヲ獨等カ満足ヲ以テ迎ヘタルニ反シ佛及其與國タル小協商及波蘭ハ反對的空氣濃厚ニシテ「バーク」ノ軍縮會議休會中ハ「ムツソリニー」案ヲ中心トシテ關係國ニ交渉行ハレタルカ佛國ノ修正要求ニ基キ原案ヲ修正シ佛ハ小協商ニ安心ヲ與ヘ六月六日羅馬ニ於テ「ムツソリニー」及在伊、英、獨、佛各大使ニ依リ「バラフエ」セラレ六月十五日署名調印セラレタリ其ノ要旨ハ左記ノ通り

「四國ハ聯盟常任理事國「ロカルノ」條約調印國タル責任ニ鑑ミ相互連帶ヲ鞏固ニスルニアラサレハ現下ノ難局ヲ除去

シ得サルヲ思ヒ聯盟規約「ロカルノ」條約「ゲロッグ、バクト」並一九三二年十二月十一日壽府ニ於テ其ノ軍縮會議代表ニ依リ其ノ原則ヲ宣明シ一九三三年三月二日政治委員會ニ於テ採用セラレタル實力不行使宣言ニ依ル義務ヲ尊重シ聯盟規約ノ規定ニ從ヒ其ノ各條ニ充分ノ效果ヲ與ヘンコトヲ欲シ關係國ノ參加ナクシテ其ノ權利ヲ處分シ得サルヲ認メ左ノ通り締約ス

第一條、總テ自國ノ利害問題ニ付相互協議シ聯盟規約ノ範圍内ニ於テ平和維持ノ爲一切ノ各國ト有效ナル協調政策ヲ行フ

第二條、聯盟規約特ニ第十條第十六條及第十九條ニ關シ締約國ハ聯盟諸機關ニ依リテノミ爲サレ得ルコトヲ留保シ此等諸條實施ニ適切ナル方法及手續ニ關スル一切ノ提案ヲ審議ス

第三條、軍縮會議ノ成功ニ全力ヲ盡スヘシ

但シ會議ノ結果特ニ締約國ニ關係アル諸問題カ解決セラレサルトキハ適當ナル方法ニ依リ解決ヲ確保スル爲本協定ヲ適用シ審査ヲ再開ス

第四條、聯盟規約ノ範圍内ニ於テ解決ヲ計ル目的ヲ以テ歐洲特ニ其ノ經濟復興ノ爲共通利害ヲ有スル諸問題ニ付協議スヘシ

第五條、十ヶ年效力ヲ有スヘク第八年ノ終リニ於テ終了ノ通告ナキトキハ更ニ無期限ニ繼續ス其ノ後ハ二ヶ年ノ預告ヲ以テ終了ス

第六條、佛文ヲ以テ決定文トシ批准書ハ羅馬ニ寄託ス本協定ハ締約國總テノ批准ト共ニ效力ヲ發生ス

尙佛國カ本協定ニ關シ小協商側ニ對シ與ヘタル保障ハ左記趣旨ナリト傳ヘラル

同協約第二條ハ聯盟規約第十九條ノ規定ニ依ル外條約改訂ノ問題ヲ提起スルコトヲ認メス又假令現行條約ニ依リ規定セラルル領土問題ニ關シ之カ審議手續ノ問題ヲ起スモノアルモ佛國トシテハ總會ニ於テ當事國ヲ含ム全會一致ヲ必要ト認

ムルモノナリ右ニ依テ明ナルカ如ク原案ニ付傳ヘラレタル講和條約ノ改訂、軍備平等權問題ハ露骨ニハ現ハレス第二條ニ特ニ聯盟規約第十九條ヲ指摘スルニ付テハ第十條及第十六條ノ指摘ヲ忘レス飽ク迄平和的改訂ノ主義ヲ明瞭ニシ聯盟ノ機構内ニ於テ四國ノ協調ヲ計ル佛國ノ主張ヲ多分ニ斟酌スルト同時ニ四國カ「ディレクトアル」タルノ誤解ヲ與フルコトヲ避ケタリ

第十六章 夏季休會

米大統領「ルーズヴェルト」獨宰相「ヒットラー」及米代表「デヴィス」ノ聲明ハ會議ノ空氣ヲ稍々緩和セシメ五月二十日ヨリ英案ノ第一讀會ヲ繼續シ種々ノ波瀾ハアリタルモ六月八日一應之ヲ終了シ英案ヲ以テ將來ノ條約ノ基礎トスヘキコトヲ定メ六月十二日開催ノ倫敦經濟會議ト議事調整ノ必要モアリ六月二十七日迄休會シ其間「ヘンダーソン」議長ニ於テ第二讀會準備ノ爲私的會談ヲ試ミタルモ右會談ハ失敗ニ終リ何等ノ進展ヲ見ルコト能ハサリキ斯ル情勢ニ於テ第二讀會ヲ開クモ何等ノ結果ヲ期待シ得サルコト明ナルヲ以テ六月二十九日一般委員會ハ「ヘンダーソン」議長ニ於テ各具體的問題ニ付速ニ主要關係國ト夫々内交渉ヲ行ヒ十月十六日一般委員會ヲ（會談ノ進捗如何ニ依リ七月末又ハ九月聯盟總會頃ニ幹部會ヲ開キ）再開シテ英案第二讀會ヲ行フコトヲ決定シ會議ハ茲ニ夏季休暇ニ入レリ

第二編 議事進行手續